

団体ヒアリングの意見まとめ（資料編）

問1 貴団体が活動を行う上で、困っていること・課題は何ですか。（該当するものすべてに○）

項目	件数
人材不足（リーダー・若い人などの後継者）	38
活動資金が足りない	17
活動がマンネリ化している	10
活動に必要な情報が得にくい	11
住民の理解や協力が得られない	8
他の団体や活動者との連携が難しい	17
活動に必要な場所、設備の確保	8
特にない	6

問2 その他の問題点、課題があれば、具体的にご記入ください。

<p>100歳時代を迎えた今、介護予防運動や会員相互による見守り、安否確認、趣味を生かした生きがいづくり、健康増進活動の推進など、各単位クラブが取り組む活動への支援強化が必要です。</p> <p>現状単位クラブ会長のなり手がいなくなり、老人クラブが地域から消える傾向が年々強まっています。その受け皿をどう市者連でできるのか今後最大の課題となるでしょう。</p>
<p>コロナ禍において、出前講座等ができず、他の方法（新聞づくり等）を模索している。</p>
<p>コロナ禍で出前講座や地域活動などを実施できず、中止となったところも多かった。地域の方々と一緒に地域活動や顔合わせをする機会が減ってしまったと感じている。</p>
<p>各施設の強みを生かしていく場合、その強みや地域において期待する役割を客観的に評価し、それらをほかの団体と共有、またはするべきことを明確に伝えることで、主体となる社協等の活動に対し、参加意欲を高めることができると考える。各施設においては、当初は地域活動を実施しても、その後人員不足や課題が発生すれば、それ以降が継続されにくくなることが多い。そのために継続的な取り組みを行うために会合やそれぞれの施設に役割を与えることで継続させることができると考える。</p>
<p>現在、毎年11月に地域のソフトボールチームと共産にてわんぱくフェスティバル（子どもたちが喜ぶ秋祭り）を開催しているが、どうしても園児や卒園児が中心となり、他の団体との連携が難しい。</p>
<p>運動会などの活動時の音響等がうるさいという苦情がある。</p> <p>焼き芋（年1回実施）時、煙とにおいに苦情</p> <p>送迎時、集中する時間の話し声が大きいと苦情</p> <p>園庭での見守りに配置する転置体制をより充実させたい</p> <p>入園希望は常時あるが、有資格の職員の余裕を持った確保が難しい</p>
<p>保育園の隣接の住民の方に子どもの声、行事の（運動会等）と気に発する音など騒音として市役所に通報される</p>
<p>生活する中で必要なあ、あればいいなあと思うことによく出会うのですが自分たちだけでは思うだけで終わってしまうので具体的に整理したり、進めたりする場が近くにないこと。（知識が全くないこと）</p>
<p>今の事業をひきついでくれる次の世代があればと思います</p>
<p>新型コロナのため、これからの活動を変化させていかなければならない</p>
<p>ひきこもり支援を中心に行っているが、ひきこもり状態の改善は医療や障害福祉サービスでできることは限られており、他の期間・団体と連携し、社会とつながりやすくするメニューを創設していくしかないが、見えにくい課題であるため、なんとかせねばならないという市域の共有課題になりにくい。</p> <p>機関内の担当者は私1人だけであり、制度に裏打ちされた支援ではないため、他の担当をふやすこともできない。</p> <p>私自身は寝屋川保健所で活動していた精神保健福祉相談経験が8年間あり、そこで得た人脈を生かし、引きこもりつなぎ相談を行い、引きこもっている人と関係機関、関係機関同士をつなぐことは一定できては来ているが、この役割を当機関で引きついでいくことは困難と考えられる。</p> <p>各々の関係機関が各々力を高め、つながりあっていくことを進めるしかないと思われる。</p>
<p>市の産業振興室ともっと話し合いができればよいと思う</p>

<p>商業団体連合会は市内商業者をまとめる役割になっている。 商店街組織・大型量販店・商店街組織にない店舗等様々な事業形態が存在している中で、共通商品券事業で全体の商業者、消費者に多少なりとも喜んでいただける事業として取り組んでいる。</p>
<p>現在新型コロナウイルス感染症のため、施設内で活動していただいているボランティアの方については活動を中止して頂けている。また、地域の方との交流を行っていた宇谷食堂を中止している</p>
<p>多文化共生事業の推進を行う中で、外国人市民への情報提供について、本当に情報が必要な人に必要な情報を届けるという事が難しい。言葉の問題、困っている事・問題点の把握など、相談窓口を設けていても、辿り着ける人が少ない。外国人市民が地域を担う人材として馴染むことが難しい。(言語、文化などの問題)</p>
<p>香里園の名がつくとおり、香里園の地元で何か社会貢献できたらと考えている。昨年、社協の取組みを聞き、地域で活動している校区福祉委員会(北校区と田井校区)を紹介してもらった。福祉活動に対しての資金援助ができないかと調整したが実現できていない。 国際奉仕もいいが、地元で何か小さなことでも奉仕できればいいなと考えている。</p>
<p>コロナ禍での通常活動(地域清掃など)のマンネリ化で利用者さんへの新しい刺激が足りない。</p>
<p>障害者に対してかかわる事に抵抗がある人が多い。 障害の理解をしてもらう。 職員の募集に希望者が少なく人材派遣にたよらざるおえない 職員の定着がむずかしい。</p>
<p>地域との交流するノウハウが乏しい。 障害に対する偏見のため、事業所の移転や新規事業開始のための物件探しに苦労している。 もっと早くにみつわ会(福祉事業)につながりたかったという利用者の声は多い。精神障害に対する理解の啓発や教育の重要性を感じている。 障害福祉事業者の数が増えたのは良いことだが、単に支援するだけではなく、当事者が地域の一構成員として生きていくことが大事であるという活動まで広げられているところは少ない。障害者支援がサービスになってしまっていることに疑問を感じる。</p>
<p>コロナ禍において、自宅で過ごす人(自粛)が多く、活動量が減っている。密にならず、介護予防の体操が出来る場、集う場が少ない。</p>
<p>人材確保の難しさは、中長期的な観点では事業の継続にもかかわる重大な問題だと思えます。 もう1つの課題は、地域住民の当法人の認知度と思えます。</p>
<p>災害時における福祉避難所に関し、当法人にあっては3ヶ所(和の里、神田の里、東神田の里)が市の二次的な避難所として協定を締結しておりますが、災害に備えて要配慮者の受入、必要な生活用品、物資、非常食の備蓄等、災害発生から避難所開設、運営までの具体的な手順について、又、情報及び各機関との連携等についての説明が欲しい。</p>
<p>『寝屋川高齢者サポートセンター』での社協との強い連携は寝屋川市の福祉関係団体・部署とのネットワーク化に大きな成果を挙げることができました。 (注)令和2年度の活動報告(中間)(別紙)①</p>
<p>当団体や運動を市民の皆様にも知ってもらう機会 20歳~40歳までしか会員資格が無いのでいつの時代も若いメンバーの必要性</p>
<p>家庭や学校以外に気軽に立ち寄れる場所として設置した。でも、実際には来てもなかなか居場所に馴染めない子もいる。両親やその子が関わっている機関から紹介され来所するのだが、なかなかリピーターにつながりにくい。</p>
<p>利用者スタッフの年齢について 今現在、青少年の居場所の利用対象年齢は中学生から30歳までとしており、スタッフは18歳(高校生不可)となっている。居場所が設立されてから8年が経つので、利用者が20代で、関わっているスタッフが10代ということも多い。利用者スタッフの年齢層が逆転している場合もあるが、もっと10代の利用があればいいと思う。 居場所のような市内で無料の施設の存在は大きいと思う。 障害を持つ方等、支援が必要な方への配慮や支援について 普段、居場所はコーディネーターとスタッフ2、3名で運営しているが、やはり医療や心理面で何か発作が起きた時などの対応が難しい。障害を持つ方の配慮や支援も課題だと思う。騒音が苦手な方や口頭での説明や会話が理解しづらい方など、苦手なことなどは伝えてもらわないとわからないので、そこにも難しさを感じる。</p>
<p>コロナの感染者が増えてきている中で、マスクの着用の徹底など色々なコロナ対策をしているが、人数が多い時の三密対策が不安でもある。</p>
<p>問1-③100年以上かけて構築された制度や活動方法ではあるが多少の陋習感もある。先達の手により改善されてきたものの、新規提案は至難の業。</p>
<p>ひとり暮らし高齢者の見守りについては、日中はデイサービスに行かれる人も多くなり、中にはいつのまにか施設に入所しているケースも見受けられる。なかなか見守りも難しくなっている。</p>
<p>民生委員・児童委員は多忙との意識を住民の方にはもっており。加えて共働きの世帯も多くなり手が足りない。</p>

<p>役員としてまだ1年 具体的な課題、問題点、その解決方法など立場にふさわしい回答がまだできません。 今後、色々と勉強してまいります。</p>
<p>出来る事なら問題が起こる前に、手を差し伸べられるような仕組みがあればと思います。福祉の敷居が高いのか、見えない基準を設けているからなのか・・・。 福祉というブランドが対象者にとってはアレルギー反応を起こさせてしまうのか・・・。 社協が担ってくれているところなのですが、連携するにはどうしたらいいのかと悩むところです。</p>
<p>助成金を申請したら地域の担い手のグループで届けを出して、8万円の予算が通った。炊き出しをしようとしたら、コロナでできなくなってしまったので、4、5万返さなければいけないということで、仲間と考えて、卒業生に花道を作りました。喜んでいただいたが、今年はコロナで中止になった。やろうとしてもできるのかわからない。立ち上げもできないし、計画もたてられない。 →新しい助成金を作ってほしいと言うことで、1団体10万円以内で申請する助成金を社協は始めたが、高齢者だけでなく、子どもの活動もコロナで中止になってきている。計画をしてもどうなるかわからない。しかし、何もなくてもいいのか。そうではなく、社協では、コロナで自粛の時に、訪問が少なくなって、高齢者の孤立の発見が遅くなっているということも聞いた。コロナの影響があるが、何もしないということではいけない。校区福祉委員会とも話をしながら、できるところからやっという、少しずつ取組が始まっている。</p>
<p>市老連という立場で、地域の高齢者に何ができるのか。いつも議論をしている。組織の6割は女性で、男性が少ない。見守り活動でも、地域でやっているところとやっていないところがある。できないことを考えている会長もいると思う。老人クラブ連合会として、進むべき道として、新しい道しるべを作っていくかといけないうことで、悩んでいる。また、地域に戻ると、地域からいろいろ相談がある。計画に5つの柱があるが、発展させて、新しい計画を作るのであれば、何が課題で、何ができるのかを出せということであれば、意見は出せると思う。</p>
<p>老人クラブでは地域をまわってもらい、会長が意見をまとめてくれている。コミセン単位で、会長が集まって意見を聞いているので、そこでまとまっている。</p>
<p>結局は後継者がいなくて辞めてしまっている。</p>
<p>市老連123クラブの多くでやってもらいたいことがある。小学校の見守りで、各クラブの単位で、送り迎えをしているので支援をしてほしい。バスに乗って学校まで行っている老人会の会員もいる。5つの柱に絡んでくるので、お金ではない支援をしてほしい。</p>
<p>地域包括支援センターや地域協働協議会など、さまざまな団体等があり、また担当(仕事)が分かれており、役割などがわからない。ここで、何を話しているのかわからない。</p>
<p>社会福祉協議会について、何をやっているのかわからない。</p>
<p>地域協働協議会など、地域にいろんな組織がある。やっている人間は一緒である。組織を単純にしてほしい。同じメンバーがやっている。担い手が結局はいない。やりたくないが、要求することは要求するのが今の時代である。</p>
<p>自治会長は、連合会がある。民生委員も協議会がある。問題は、老人クラブ連合会は、この2つの会と位置づけが違っている。影が薄い。民生委員や理事会など、国の施策に乗っ取って行っている。老人クラブ連合会は、高齢者福祉法で成り立っており、クラブ数に則って補助金をもらっている。なのに、担い手となると老人クラブ連合会への期待がされていない。その違いがある。市老連の会長になって一番感じている。 →社協もいろいろな意見を聞きたいときに、高齢者の大きな組織なので、市老連の代表として、会長に高齢者の立場でお願いをしていることがある。こちらとしては、会として参考にしてもらっている。</p>
<p>高齢者に対し、これから何をしていかなければならないか、社会的なニーズがあるが、それを知っているのは、このメンバー。各地域の会長、校区の会長である。年間通して、会長の研修会を行っている。必死になって、メモをしている。次の年に、みんなにアピールをしていきたいと思っている。市老連全体として、123クラブ、9,000人の会員にどのような喜びを与えられるか、それを行うのが理事会である。</p>
<p>重点取組の柱があるが、この小さいことを私たちは行っている。私たちが援助してほしい。小さいながらも、一生懸命行っている。老人会を支援してほしい。</p>
<p>広報紙「虹」があるが、何年か編集委員として参加してきた。皆さん社協の会費を払っている。赤十字にも払っている。社協は立派な活動をしている。それは市民から会費が集まっているが、市老連は会員だけの費用と少しの支援だけで行っている。市老連の諸活動の支援を少しでもいいので行ってほしい。</p>
<p>会費が負担になっている人もいると思う。新規募集すると会費を払わなければいけないからと、会員にならない人もいる。 →高齢者の方が、無償でちょっとした日常生活の手助けをする活動を、社協でも取り組んでいるが、有償の活動を老人クラブで取り組めるのか、その仕組みがあれば、会員が増えるのかどうか、一緒に考えられないかと感じている。</p>
<p>老人会に入らない人がいる。現役で、立派な肩書きを持っていた人も入らない。会員の中でも、心を一にすることも難しい。会長が変わっても、引き継ぎがうまくいかない。これからの老人会のあり方として、現役を引退した人が丸裸で行っていかねばいけないと思う。</p>

<p>社協は、市ではなく、民間（法人）です。市老連も同じです。お金のやりくりは難しいが、市老連では多くの活動を行っているので、支援をしてもらいたい。</p>
<p>家庭や学校以外に気軽に立ち寄れる場所として設置した。でも、実際には来てもなかなか居場所に馴染めない子もいる。両親やその子が関わっている機関から紹介され来所するのだが、なかなかリピーターにつながりにくい。</p>
<p>利用者スタッフの年齢について 今現在、青少年の居場所の利用対象年齢は中学生から30歳までとしており、スタッフは18歳（高校生不可）となっている。居場所が設立されてから8年が経つので、利用者が20代で、関わっているスタッフが10代ということも多い。利用者スタッフの年齢層が逆転している場合もあるが、もっと10代の利用があればいいと思う。居場所のような市内で無料の施設の存在は大きいと思う。</p>
<p>障害を持つ方等、支援が必要な方への配慮や支援について 普段、居場所はコーディネーターとスタッフ2、3名で運営しているが、やはり医療や心理面で何か発作が起きた時などの対応が難しい。障害を持つ方の配慮や支援も課題だと思う。騒音が苦手な方や口頭での説明や会話が理解しづらい方など、苦手なことなどは伝えてもらわないとわからないので、そこにも難しさを感じる。</p>
<p>コロナの感染者が増えている中で、マスクの着用の徹底など色々なコロナ対策をしているが、人数が多い時の三密対策が不安でもある。</p>
<p>若い人は参加できるときに参加してもらおうようにしないといけない。回覧板を作ってもらおうなどして、若い人にも残ってもらえないといけない。そうしていかないと自治会も続いていけない。</p>
<p>自治会も高齢者が多くなってきて、一人暮らしも多くなってきている。</p>
<p>PTAに声かけをしているが、PTAも忙しくなっている。主婦も忙しくなっている。役員も決まらない。</p>
<p>若い人を入れていきたいが、高齢者だけになってしまう。会員や役員も一緒の人になってしまっている。</p>
<p>地域清掃を行ったが、庭木を切してほしいという人がいるが、高齢者での活動は危ない。若い人であれば手伝ってもらえるのに、限定でもいいので手伝ってほしい。</p>
<p>ふれあいを大切にしないといけない。まちを活性化するには、ふれあいが大事。しかし、自治会の脱退などに歯止めがかかっていない。地域が大事と言っているが、抜けている。自治会に必ず入ってもらうなど、歯止めが必要だが、今のところかけられていない。強制力がない。</p>
<p>地域の困り事をワンコインで支援していくのにも、制度がないと続かない。</p>
<p>地域協働協議会の将来像について、市と協議していかねばならない。</p>
<p>複数の会を1つにしたところもある。会議は1回になるのでよい。</p>
<p>校区福祉委員会には、地元の自治会長が入らないといけない。きちんとした規則、基本を決めないといけない。</p>
<p>校区福祉委員会の組織の中身はそれぞれ違うが、組織としての方針を徹底しないといけない。</p>
<p>地域の清掃などに、クラブ活動の一環で行うということがプログラムで決まっていれば、きっかけとなって大人になって、地域に参加することがしやすいのではないかな。</p>
<p>ボランティア活動をしたら、バッジをもらう活動を行っているところもある。その子どもたちが地域で活躍してもらおう。子ども福祉委員という言葉も出てきている。</p>
<p>教育委員会と話をしていかないといけない。</p>
<p>子どもたちにも、隣近所の大切さを伝える必要がある。</p>
<p>保護司会適任者の確保と充足率向上、保護司の高齢化が進み退任者が多くなり、充足率が低下している。現在定員84名のところ75名である。ここ3～4年でプラス10名程度の欠員が見込まれる。保護司会組織に関しても問題が出てくる。保護司活動をより多くの方々に理解いただき、他団体との連携のもと考えたい。</p>
<p>保護司の確保。定数に対し10名程度定数割れが常態化している。候補者の情報が少ない。職務上、適任者がおられても家族の同意が得られない場合が多い。</p>
<p>コロナ禍でほとんどの行事が中止になり、活動ができていない。</p>
<p>対象者が抱えている問題点（就労支援等）を解決するためワンオペレーションで相談できるような機関との連携が必要。貧困対策、経済支援等、社協とはうまくいっていると思う。</p>
<p>犯罪者の更生に関わるボランティア活動であるため、保護司の依頼をする時、家族の同意が難しい。更生保護活動に対する運動をさらに広める必要を感じる</p>
<p>コロナ禍において、出前講座等ができず、他の方法（新聞づくり等）を模索している。</p>
<p>従前から、集いの場づくりに力を入れていたが、コロナ禍で出前講座などを実施できず、地域活動自体が中止となったところも多かった。地域の方々と一緒に地域活動や顔合わせをする機会が減ってしまったと感じている。</p>
<p>コロナ禍において、自宅で過ごす人（自粛）が多く、活動量が減っている。密にならず、介護予防の体操が出来る場、集う場が少ない。</p>
<p>「若い世代」を60歳前後、退職された方と定義した。PTAも参加してくれていたが、1年単位で交代しているので、活動が難しいのではないかなという意見もあった。以前は、現役世代が自治会長を務めていたが、今は難しいと思う。若い人の参加は、自治会長が声をかけてくれるとありがたい。</p>

<p>「若い世代」を40～50代として、60代は現役の活動者として捉えた。若い世代へのアプローチとして、活動を知ってもらう。子どもと一緒になら、親世代は関わりやすいのではないかと。できることから参加してもらったり、子供が小さい時から声かけしながら、少しずつ活動に関心持ってもらおう。夏祭りなど、大きな親子で集まる行事をいい機会にして、できることから関わってもらい、イベントをやることで、目を向けてもらうことが大事である。</p>
<p>若い世代は40～50代をイメージしているが、若い人は働いており、また就労年齢が上がっているため、なかなか、若い世代が参加しづらい。見守られるべき人が見守っている。子育てサロンでは、50～60代の方がサポートしてくれたり、参加してもらえるところは参加してもらっているが、見守りの部分では参加してもらおう人の層が少なかったり、年齢も若い人が入らない課題がある。</p>
<p>「若い世代」だけでなく、担い手がいない。役員から活動をしてくれそうな方などに声をかけてつながりをつくらせたり、自治会長を担ってもらえそうな人に、サロンなどの活動に参加してもらおう。</p>
<p>「若い世代」は60代と定義した。なぜ、若い世代が参画しにくいのか。そもそも組織に問題があるのではないかと。いかに若返りをしていくかが大切。福祉委員会に保育所、PTA、福祉施設の長、NPOの会員の方などが参加してもらおうことによって、若い人が活動しやすくなるのではないかと。</p>
<p>「若い世代」をPTAと定年退職した60代と定義した。PTAは福祉的意識が高い。また、生徒会や子ども会に声かけをすることが多いという意見があった。PTAのOBにも声をかけ、協力してくれる人を作る。PTAの行事、餅つき大会など、女性が多いが、行事の時は男性も参加してくれるので、男性にアプローチしながら巻き込んでいく。定年退職された60代の人についても、男性の参加が少ない。最初のきっかけづくりであったり、活動の良さをどのようにアピールしていくかが課題。</p>
<p>民生委員、老人クラブなど様々な団体があるが、それぞれが活動をしており、リーダー同士のつながりが大切である。リーダーはオフではつながっているが、活動上ではつながりがない。抱えている課題は一緒であるが、元々が違うので、リーダー同士のつながりが大切である。</p>
<p>活動場所としてコミュニティセンターなど公的な場を利用できればいいが、そこを利用できる場合でも、そこまで移動できない人もいる。</p>
<p>ボランティア名簿を見てもらい、知ってもらう。役員だけでなく、地区の小さい単位で活動している人の顔も知ってもらうことも大事である。それは、常日頃の関わりが大切であり、個別ケースで動ける人に動いてもらう。</p>
<p>無償のボランティアは限界がある。有償が有効になってくるのではないかと。</p>
<p>若い世代に関わってもらおうポイントを明確にする必要がある。役員レベルで若い人に入ってもらおうのか、祭りなどのイベントに若い人が関わってもらおうのかによって変わってくる。</p>
<p>ボランティアのニーズがあれば、必要とされていると感じ、できる範囲で頑張っている人もいる。無理に若い世代を入れようとしなくても、活動してくれている人もいる。</p>
<p>イベントを行う際に、企業や福祉団体のブースを作るなど、協力関係ができることもある。事業所と連携をして、見守りの一員として関わってもらっている。企業の関わりについては、経営側とボランティア側と目的が違うので、難しいという話があった。目的が合致するものがあればいいが、難しい。</p>
<p>地域差がある。第五校区では自主防災活動に取り組んでいる。福祉委員会から数名出いただくことで、福祉委員会として防災のノウハウなどを広げていくことも、工夫の一つだと思う。</p>
<p>既存の組織ではなく、新しく変革し、新しい発想の展開が必要である。若い人が入りづらい組織が問題で、新しく考えないといけない。</p>
<p>福祉施設の協力は、自治会内での関わりはあるが、校区全体としては難しい。福祉施設以外に一番関わりがあるのが地域包括支援センター。</p>
<p>自治会内の連携が大切で、地区長が福祉委員になってもらっているが、地区長が何をやるのか明確化されていない。民生委員などと連携をしていくことが大切だと思っている。</p>
<p>老人会、子ども会が地域になくなってきてしまっていて、その役割が自治会に行っていることが、自治会の負担になっている。今ある地域のつながりの中で、見守りをしてもらおう人を増やしたり、活動に関わってもらおうというのではなく、自然と関わりが持てるようにすることが大事。</p>
<p>福祉活動というと、高齢、障害、子ども、貧困など幅広い中でも、9割くらいは高齢分野に視点がいつてしまう。福祉の分野で、幅広く対応できない部分や、地域性によって違いがあるので、それも偏りが出てしまう。実際に問題が発生しないと、目が行かないこともある。声を聞く場がないので、福祉活動となると、縦割りになったり、1点集中してしまっていることが課題。</p>
<p>その他の課題として、自治会内での連携や、地域包括センター等との連携が課題になっている。</p>
<p>エスポールまちかど相談所では、4校区合同で取り組んでいる。もっと団結力を高める必要がある。</p>
<p>府営住宅の自治会は、福祉委員になってもらいたくても人の入れ替わりがあり、機会を失うことが多い。地域の中には、自治会、福祉委員会などいろいろな団体があり、何かをやると抱き合わせで役割を担うことがあるので、1つであれば参加できる人はいるが、たくさん担うことになるといううわさが流れている。</p>

ひきこもり相談は増え続けており、医療機関に相談に来られるご家族とのお付き合いは長期に渡って続くため、マンパワーが必要である。

また、家族の集いを任意で行い始めたが、当クリニックで相談を受けている方以外にも開いた会として行っているため、クリニック以外の場所で交通の便が良いところを使用したいが、場所の確保に困っている。

そういったまだ市内にない資源の創出をしていくには、活動資金が必要である。

関連意見（ボランティアを取り巻く現状）
コロナになってから、ボランティアを打ち切っている。施設からは余暇を期待していた。外部に友達ができる感覚、喜んでもらえる。コロナ以降、切れてしまっている。施設で考えることも限界があるが、今は止まっている。先が読めない状況である。いつからボランティアに頼めるか。
荒川区社協が取り組んでいるサマーボランティアスクールで、子どもが手紙を書いたり、対面ではない交流を紹介したが、施設の現状ではできるのか。 →業者も出入りを止めている。やっているところはやっているが、今まで当たり前に行ってきたことを止めてしまっている。
直接高齢者と会って話すことが大事であるが、コロナ禍の中では難しい。
ボランティアの存在は、利用者からすれば、余暇である。外部で友人を作るというのはいい視点である。話し相手、傾聴、話を聞くだけでも意味のあるものであるが、それが今はできていない。
地域では女性のサロン参加者から活動再開を楽しみにしている声をきく。
サロン参加者の多くは女性で、男性は道でお会いする際、声かけするぐらい。
コロナ後、何からやっていくか。集まる場所が必要だと思う。
集まることがなかなかできないが、月に1回は活動を行っている。そのときに、接点を大切にしている。そこで、声は拾っている。高齢者の中でも主力でやっていただいている人は老人会にいるので、そこで声を聞いている。外での掃除、廃品回収の時に行っている。いろんな世代が来る。幅広い声が聞ける。
6時半にラジオ体操を行っている。時間になったら、それぞれラジオを持ってきて、そこに行けば誰かがいる。自治会の老人会の人には言っている。不要不急という言葉があるが、必要でゆっくり必要なものがあり、それが大事だと思っている。生きがい、楽しみとして、急がないが必要なものが何かあると思う。それも不要不急で切られてしまったら、残念。
ランチを行っていて、楽しみにしていた人がいた。コロナでもやってほしいと言われている。
団体の行事としてやっている場合は、開催しにくい雰囲気はある。個人的なボランティアの集まりを行っている。自治会でも、一切ダメなところと、約束を守ればやっていいところと分かれている。校区福祉委員会は活動をしないといっているの、やるのであれば、自己責任。ボランティアも個人で話し合っただけという覚悟がある。どのあたりの基準で行っていくのか。
活動を再開している中で、やってほしいという声があるので、福祉委員会でスタンプラリーをしていく。楽しみにしている。外で受付を行い、マスクをしてもらい、検温もしている。サロンを校区の中で、外で行っていく。都合のいい時間で無理をしないように計画して、準備をしている。密にならないようにしていく。
障害を持つ方の状況ですが、障害者週間があり、キャンペーンを行っている。駅前に立って、障害者理解の啓発をしている。今年は、コロナの影響で外でやるが、手渡しとなるので、市民の理解が得られないのではということ。伝わらないということがあり、やめた方がいいという意見があり、今回はなくした。障害者団体の活動も縮小で、屋外でも躊躇している。10、11月行事を予定しており、学校の先生に来てもらい、学校の話を直接親にってもらっており、たくさん来てもらった。思いのほか、情報がない、届いていない。学校が止まっており、学校見学ができなかったのと、学校の様子かわからず、不安。学齢期の子ども、就学前の親に情報が届いていない。これから学習会をする予定で、人数制限をしているので、実施しようと考えている。情報が届かないというところに問題がある。
障害のある子どもの親が孤立化している。親が大変みたいで、SOSが出ており、虐待につながらなければいいと思っている。本人を外に出す、みんなが出ることができる機会が必要だと思う。
知り合い（若者）が話してくれたことだが…若い世代が参入しやすいポイントは、明らかにわかり易い活動内容で、他者に褒められる、単発でも可能なボランティア活動。また、例えばJCのように、同世代のグループがあると入りやすいし、すごくやってくれる。地域で活動するボランティアのイメージは、“老人会の延長”。若い世代はパワーをもっている。若者を引き込むのではなく、放置して立ち上げさせ自由に活動させてできる輪に私たちが学び、協調していく方が上手くいくかもしれない。

問3 貴団体が困っていること・課題について、どのように解決しようとお考えですか。

<p>寝屋川市長、市議会議長、教育長にお願いに行っている 会員各自の知り合いを紹介してもらっている</p>
<p>定数確保のため、知人をあったり、各方面の人々に依頼している</p>
<p>活動が施設内で完結しているところが多い。保育所協議会として地域福祉活動が全くと言っていいほどできていない。地域貢献委員会、またはそれ以外としても個々の保育園や認定こども園単体の活動は難しいので、協議会、委員会といった施設の連絡会のようなものを1つの団体として活動を考えていく必要がある。</p>
<p>職員募集の強化 魅力あるHPの作成 活動内容を告知</p>
<p>コロナ禍においても地域のつながりを大切に、状況に応じて自粛と再開を繰り返しながら、のりこえていくしかないと考えている。電話などによる連絡や談話を大事な機会にしていきたい。</p>
<p>団体の活動を広く住民にPR、そのための啓発活動を機会があるごとに催すこと。</p>
<p>地域福祉活動の窓口が明確になっていないため、在宅のケアマネが対応することが多い。そのため、地域貢献員等の設置を法人にて行うことを検討している。</p>
<p>わんぱくフェスティバルの告知が限られた場所（町内の掲示板）しかないため、HP等で告知を広げる。</p>
<p>行事の前に実施内容等をお知らせするポスターの掲示や、近隣の方々に周知するためのポスティングを行うようにしている</p>
<p>少しの時間でも子どもの見守りをしていただける、子どもの好きな方々に来ていただけるよう広く募集をする</p>
<p>個人が近隣の道等清掃をして、あいさつをするように心がけている</p>
<p>求人、フェア等の利用で確保 HP等を使用し求職者へのアピール</p>
<p>理事長に話を聞いていただき詰め込んで核となる部分を見つけ軸を作る。</p>
<p>なかなかみつかりません</p>
<p>老人憩いの場”楽” →つどえる場の運営が困難なため、配食弁当に変化している 子ども食堂→食堂開催が困難なため、食料、文具等の配布を行い、その中で特別に支援を必要としている家庭には訪問や食料配布を行っている。 人事不足→取り組み内容や困っていることを1人1人丁寧に説明し、賛同を得ることで少しずつ進んでいる 資金→寄付金や助成金、補助金集めに走っています</p>
<p>自立支援協議会相談支援・権利擁護部会ひきこもり支援サブワーキングで関係機関と課題を共有し、関係機関、団体にも共に考えてもらえるよう、2019年度より支援者を対象にした「ひきこもり支援セミナー」を開催している。</p>
<p>事業等を通して人事の発掘</p>
<p>私たちの団体も歴史が古く、毎年役員また理事様方と話し合いはしてまいりますが、毎年行って商品券、夢くに事業、他に季節に合わせた事業を実施していますがまた一度コンサルタントの先生と身近な寝屋川市の発展につながるような話し合いをしたいと思います。</p>
<p>買い物弱者や地域的に利便性に欠ける消費者の方々にも届けられるシステムを構築していかなければと考える。現在このコロナ禍で宅配サービス（例 ウーバーイーツ）の利用が増え、事業拡大され、増収が見込まれている。商団連としても商品券事業以外にも考えていかなければと思うがメンバーは店舗を構えている店主なのでアクションをおこすにも無理がある。</p>
<p>多機関と連携しながら取組みを検討していく。</p>
<p>連携する機関等の役割や状況を理解したうえで負担の偏り等に配慮しながら連携の内容を検討していく。</p>
<p>参加者の希望を聞くとともに、参加者のニーズに対応できる専門分野の人との連携を大切にしている。</p>
<p>上記に関しては、新型コロナウイルス感染症の対応に日々追われており、どのタイミングで再開していいのか目途が立たない状況である</p>
<p>マンパワーが必要な活動（一時的に）の際に手助けをもらえる人材の確保が難しい</p>
<p>色々な団体との連携、協会広報紙の配布などでの周知。 外国人住民と地域を結び、繋げるために、通訳者や協力者の派遣などを行っているが、費用面で課題がある。</p>

<p>仕事としてマンションの管理をしていると、時々孤立死がある。管理人に住民の異変、例えば電気のメーターや郵便物などの異変がないかどうか気にかけるように言うが、なかなか無くならない。ひとり暮らしの孤立死はなんとかならないかと思う。</p> <p>業界によっては、人手が不足している。今は、国のハローワークを利用しているが、市として雇用の専用窓口があればいいと思う。地元で必要な求人・求職の情報をシステム化できると双方（雇用主も労働者も）いいのではないかと考える。</p> <p>個人的にNPO法人で住まいと環境の支援センターをしている。市の広報を使って、弁護士にも来てもらって住まいの相談会を実施するも、ほとんど相談が来ない。住まいのトラブルに関する相談があれば協力できることがあると思う。</p>
<p>障害福祉課の担当者に連絡しようと思っている。</p>
<p>人材の面ではハローワークの利用や友人や家族の紹介で不足を補っていかうと考えている。</p>
<p>地域との交流等をとおして、障害を知ってもらう。</p> <p>実習生の受け入れ(職場体験・学生実習など)。</p>
<p>法人の中期計画において広く地域活動ができる職員の育成を計画目標として入れている</p> <p>関係機関と連携し地域課題の解決に取り組む(生活困窮者の救済等)</p>
<p>理解を頂くため、丁寧な説明と気配りをしつつ協力を仰ぐ</p>
<p>総合的な採用・教育体制の工夫、海外人材、介護補助員のどう確保するかなど。</p> <p>ICT、ロボットの活用。</p> <p>地域向けのイベント教室の開催を継続する</p>
<p>市の担当部署（高齢介護室、障害福祉、危機管理室、社会福祉協議会、協定福祉施設等）が連携のとれる様に、定期的な連絡調整会議の開催をしてください</p>
<p>外国人の雇用</p> <p>未資格者の資格取得支援</p>
<p>市社協の鍵預かり事業の訓練として、職員と地域の合同練習が現在コロナ感染防止で進まない状況なので時機を見て取り組みたい</p>
<p>設立20年経過、活動会員の高齢化により漸減</p> <p>今までの活動員による『ロコミ』だけでは元気な65才以上の前期高齢者の参加が不足し、担い手不足になっています。最大課題。</p>
<p>Webなどを活用し運動や事業を発信し、活動を理解頂きメンバーを増やしていきます。</p>
<p>人材の確保（依頼）時に、選出人被選出人の感情が絡むことも少なくない。個人的な考えの払拭と委員同士の啓発、情報収集。（例：適任と感じる人に、自治会長の反対があつて・・・など）</p>
<p>高齢者等でなり手がなく一部の方に負担が集中している。</p> <p>改善策として、民生委員に福祉委員の連携を図るとともに地域住民とも連携した見守り活動となるよう、社会福祉協議会の理解を求めます。</p>
<p>民生委員の職務（活動）を地域に正しく理解してもらうよう努力していく必要がある。</p>
<p>校区内の福祉活動で民生委員は何役も関わっている中で、日々忙しい。他市との研修交流会の会場で民生委員と地域協力が協力して合う制度を知った。</p> <p>民生委員のなり手不足、高齢化の現状から寝屋川市においても民生委員のサポート役として協力員の存在が必要と感じている</p>
<p>早い段階から、連携して動けるようにチャレンジしてみたいが、社協に出向しているような立場なら、対象者は受け入れてくれるのではないかと感じたりします（騙されたと思ってしまふかな）。</p>
<p>困りごとがある時は、青少年課に連絡、相談します。それに対しては事柄や状況に合わせて対処していただいています。</p>
<p>利用者がおかれている家庭環境や学校での様子、心身の状態等、把握すれば相手の気持ちにもっと寄り添えた対応がしやすいと感じる。そのために、活動日誌、スタッフとの打ち合わせでの情報共有、青少年課との情報交換等で補っている。</p>
<p>【人材不足と、利用者とスタッフの年齢について】</p> <p>解決策として、スタッフの年齢を20代とするなどはどうか、そうすれば、利用者は少し年上のスタッフから社会性を学び、スタッフは大人として、きちんと利用者に伝えていくことがやりやすくなると思う。利用者（10代）とスタッフ（20代）での青少年の居場所が、将来的に利用者が20代になり、スタッフとして活躍するサイクルができれば、人材確保も少しずつ容易になると思う。</p>
<p>【場所や設備について】</p>

<p>居場所は6つの部屋から構成されているが、賑やかな場所が苦手な人、周りの視線が気になるけど、誰かがいると安心できるという人もいます。どこかの部屋の一部に周りを気にせず本を読んだり、勉強ができるけど誰かがいるという安心感があるスペース。例えば、パーティションで仕切り、一人用の椅子があるなどもいいと思う。</p>
<p>連携、持病を持った方の支援や配慮について スタッフは特に医療面や心理面の専門性がないので、応急措置の講習や、中高生との関わり方等の取り扱い方を学べる機会を増やした方が良いと思う。</p>
<p>利用者が多い時はソーシャルディスタンスに気を付ける。「青少年の居場所」独自のコロナ対策として、人数制限など必要ではないか。</p>
<p>活動内容が犯罪者対応に関すること、保護観察、環境調整、犯罪予防活動、再犯防止活動等地域、家庭内の理解が必要とされるので、各保護司が地域等により理解をしてもらえるように働きかけ、連携を持つようにしなければならない。</p>
<p>担い手不足を解消すべく、市や市議会など関係機関への協力依頼や会員各自の知り合いを紹介してもらっている。</p>
<p>コロナ禍においても地域のつながりを大切に、状況に応じて、自粛と再開を繰り返しながら、のりこえていくしかないと考えている。電話などによる連絡や談話を大事な機会にしていきたい。</p>
<p>多機関と連携しながら取組みを検討していく。</p>
<p>連携する機関等の役割や状況を理解したうえで負担の偏り等に配慮しながら連携の内容を検討していく。</p>
<p>参加者の希望を聞くとともに、参加者のニーズに対応できる専門分野の人との連携を大切にしている。</p>
<p>まだまだ検討中。 関係機関と連携して、一機関だけでなく、互いに協力しあって解決を考えたい。</p>

問4 その時、必要な支援はどのようなことだとお考えですか。

<p>老老夫婦で片方の世話が難しくなった場合は早めに地域包括と連携した対応が今後ますます必要となるでしょう。まずは地域福祉活動に対しての保育園等の経営者の理解・協力が必要。まだその土台さえも出来上がっていない状態だと思われる。そのためには現在は一部のみが参画している市社協との関係をもう少し進んだ形で密にし、地域福祉の現在の活動状況説明の場などを設けていただくことも必要。まずは現状の理解をうながすために保育園等の経営者に現状についての説明などをしていただけないかと思う。</p>
<p>活動内容がわかるパンフレット</p>
<p>地域の人たちがICTを活用できる環境を整備していく必要がある。コロナ禍で自粛する人たちに、メッセージを送りつなかりを切らさない支援が必要。</p>
<p>行政、関連機関が協力してくれること</p>
<p>団体の地域事業に対して期待すべきことの明確化連携者間での共感 本来であれば、社会福祉法人は地域貢献を実施する義務があるが、その取り組みが意義あるのか、または評価されているのかに対するものは、自己評価でしか感じにくい（対象者の声であっても、言って一環過ぎると自信がなくなったり） そのため、自身の取組が本当に適正だったのかの評価や期待する役割を客観的に社協等が行えば法人はその役割に対して意欲があがると考える。</p>
<p>保育士バンクのように市で登録されているように民間も活用できるシステムがあればと思う</p>
<p>施設側と求職者をつなぐ場</p>
<p>整理し、実行にうつすことができる場、つながれる場が身近にあること</p>
<p>特に人材不足には若い人を取り込むには少額の謝礼金があればと思います。活動資金の支援があればと考えます ひきこもり支援セミナーを必ず継続開催していくという合意を揺るがせないこと。セミナーに伴う予算が確保できるならばなお望ましい。</p>
<p>私たち全員がボランティアで活動しております。本年も商品券を市民の方々に喜んでいただくため、役所より助成金をいただいて発売はしたが本市の場合シルバー65歳以上の方に2割お得とのことで（1冊5,000円が6,000円） 近隣の市ではもっと高い金額を各家庭に出されています。今年は新型コロナの関係で世の中暗くなっています。投資も助成金を少しでも多くお願いできれば…</p>
<p>すべての団体の協力と支援</p>
<p>社協等のボランティア関係団体に支援を申し入れる</p>
<p>さまざまな団体との情報共有、意見交換など。 また、情報提供の場、チラシ等の配架場所等。</p>
<p>高齢者にやさしい街づくりをめざしてほしい。香里園の商店街を歩き交う人を見渡すと、高齢者が多い。ちょっとした段差でも困っている姿を見かける。先日、市役所の本庁のトイレに行ったが、和式のトイレがあった。洋式トイレにしてはどうかと思った。また、階段の昇り降りの際にも、手すりが両側にないと不便だと感じた。公共施設の建物から、そうした高齢者への配慮をしてほしい。</p>
<p>人材への教育等をしてもらえると助かります。</p>
<p>取り組み等を通して伝える。情報の発信。</p>
<p>社協等の関係機関との連携(生活困窮者支援事業等)</p>
<p>校区福祉委員会や介護サービス事業所と連携して、支援が必要なケースの早期発見、早期支援を行いたい。 市が介護の就職イベントを定期的を開催する（助成でもよいので） 市内の介護職に独自の補助事業をする 社会福祉法人が行う地域向けの活動は掲示板や回覧板でお知らせしてもらう</p>
<p>地域協働協議会等において市の危機管理室も参加して頂き、自治会役員福祉避難所等が災害対策の具体的な施策を考え（地域・避難所・市）が住民の生命を守るため、一丸となって取り組んで行かなければならないと思う。又、要配慮者が安心して避難できるように、市のホームページ、広報誌、暮らしの便利帳などにより福祉避難所の周知を図り理解と協力を求める。</p>
<p>資金等、ネットワーク</p>
<p>市社協、校区福祉委員会、当施設で協力して啓発したい（寝屋川十字の園周辺にて） コロナ禍後、ボランティア活動参加者は『志』のある市民が活動を継続されています。 『志』のある市民を発掘 参加を図るためには『官民』挙げて寝屋川市での広報活動が必須。 ●目標 『福祉の街・寝屋川の実現！』 ●社協・関係組織団体等のネットワーク化</p>

●高齢者への『地域毎の互助』意識の高揚。 (ちょいボラ)
もし可能なら当会議所の活動に賛同頂ける20～39歳の若者を紹介頂けたら。 共に地域の有事の際市民に支援できる形を作れたら。
地域包括は介護情報を把握していると思うので、民生委員のひとり暮らし高齢者調査の際に事前に情報が欲しい。
民生委員活動を地域の方々に広く知ってもらうように周知していくことが大事である(例えば広報とか) 協力員(仮称)に対して まず寝屋川市を民児協の話し合う機会を設ける ① 協力員の研修を実施 ② 身分の保証 ③ 活動に対しての活動費を支給
必要と考えられる機関が、ケースを真ん中において顔の見える関係を作り、必要に応じて働きかけられるような態勢整備を図った上で、ゴールに向けての道筋を考えられるような地域になればいいなと思います。
できるだけ、いろんな場面で、利用者の態度、言動、その時にどのようなやり取りがあるのか等について、コーディネーターやスタッフと考えを共有するなど、皆が安心して活動できる取り組みが必要。
まず、地域で必要とされること。保護司であることを知ってもらうこと 適任者を紹介してほしい。
地域の人たちが、ICTを活用できる環境を整備していく必要がある。
コロナ禍で自粛する人たちにメッセージを送り、つながりを切らさない支援が必要。
校区福祉委員会や介護サービス事業所と連携し、支援が必要なケースの早期発見、早期支援を行いたい。
ひきこもり支援については、根気よく長期間にわたってかわっていくことが必要なため、互いの機関の情報共有と連携と、新たな資源の創出が必要と考える。

問5 現在、連携・協力関係にある団体はありますか。(該当するものすべてに○)

項目	件数
自治会	25
ボランティア、NPO福祉活動団体	25
老人クラブ	10
子ども会	3
福祉施設・サービス事業所	26
医療機関	16
保育園・幼稚園・学校	25
地域包括支援センター	19
児童館・子育て支援センター	5
社会福祉協議会	34
市役所	26
その他	3
特になし	12

問6 また、連携・協力関係にある団体とどのような活動を行っていますか。

具体的にご記入ください。

NPOの高齢者団体との月1回の交流会（主に高齢者4～5人が月1回園への訪問し、保育に参加） 年1回の老健施設への園児の訪問と交流
自治会については、住民のケース対応の中で連携することがあり、特にゴミ捨てに関わるような話は自治会に相談することが多い。出前講座を依頼されることもある。定期的な会議を開催するとともに、個別ケースにおける日常的な連携を図っている。
各団体の催し事、行事に参加、活動 京阪バスについては民児協の啓発もポスターを各バスに掲示
高齢者施設団体間での支援体制 社協により地域貢献委員会による連携取組
ふれあい祭への参加よびかけ 老人施設やあゆみ会へ定期的に訪問、交流をはかる ボランティアさんによる子どもの見守りや園庭の草抜き 市の保育課、子ども守る課と連携し家庭支援につなげる 地域の就学前の親子があそびことができる日を設け、園児との交流や相談業務を行っている 幼保交流会&年4回園を持ち回りで交流会を実施している。 老人会との合同運動会に参加
西北コミセン地域にある保育園、幼稚園が交流会を行っている（ごっこあそび、ドッチボール大会、運動会等） 小学校に給食を体験させてもらいに年長児が2月頃行く、1年生の授業を参観させてもらい、いっしょに遊ぶ。 地域協働のこいのぼりに絵を描き参加 校区付近の故老の集いに参加
地域掲示板の利用、地域事業への参加 地域子育て事業でのボランティア 合同事業
いきいきサロンの配食をお手伝いしました
依頼された自治会にお弁当の配食
自治会→公民館無料使用、福祉まつり参加、活動ポスター提示 子ども会→子ども食堂開催の周知 福祉施設→子どもたちのおやつを協力してもらっている 保育所、幼稚園、学校→子どものことでの困りごとの情報の共有 社会福祉協議会→運営相談、助成金制度の協力 市役所→補助金協力、大阪府の制度へのつなぎ
連絡を取り合い、ひきこもり状態にあたり、通院以外はどこにもつながってなくて孤立している人のサポートを行っている。
市民の方々に安心して楽しくお買い物ができるように大型店小規模店が一緒にプレミアム商品券等や発行に頑張っています。
老人クラブ→寝屋川市商店連合会と連携し「きずなカード」発行 地域包括支援センター→認知症対策でセミナー参加 市役所→共通商品券、夢くじ事業での補助金
現在、ボランティアの受け入れはコロナの関係で中止しているが通常はレク、習字、誕生日会等を行っている。 社協には鍵預かり等、医療機関は受診や入院等、福祉施設、サービス事業所、包括はサービス実施に当たって、相談を受けたり、相談したりする。
福祉ニーズの状況を共有したり、医療ニーズの必要な方の対応方法を相談したりする
イベントや事業の共催、情報共有、講師やボランティアの派遣、事業委託 など。
当事者本人が直接対応している。 細かいことは分からない。
<ul style="list-style-type: none"> ・日々の健康管理←医療機関 ・創作品の販売等←保育園、学校
すまいるカフェを2ヶ月に1回くらいのペースで地域の方と障害者の交流の場として設定し、製作や昼食作りを取り組んでいる自治会で、回覧をまわしてもらったり、参加の方の窓口をして頂いている。 ・年に1回高齢者のグループホームと校区福祉委員会と共催で祭を実施し、施設を開放して地域の方々に参加し

<p>て頂く。福祉委員会の方には、模擬店を出して頂いている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内施設協議会や地域貢献委員会への参加
<p>自治会とは地域の清掃等を協力 ボランティアは福祉事業所で定期的に受け入れを行っている 子ども食堂の実施者にお菓子の寄付 しゃべり場にも職員、利用者が参加 生活困窮者自立支援事業の就労準備訓練事業所の登録 福祉のお仕事座談会にも法人職員が参加 医療機関や行政機関とは日々の利用者支援において連携関係にある</p>
<p>利用者、入居者の生きがい活動に対しての支援 介護サービスを提供する上での連携 社会貢献業での協働支援</p>
<p>2. 施設内でのボランティア活動 5. サービスの連携、障害施設製品の販売 6. 入居者の医療の連携 8. 地域イベントの共催 10. 校区福祉員さんとの連携、ボランティア、鍵預かり、元気アップ</p>
<p>運営推進会議（自治会役員・地域包括支援センター・施設職員）1回/2ヶ月 ボランティア（健康体操・社会福祉協議会（元気アップボランティア）） 老人クラブ連合会（福祉相談） 協力病院、歯科との連携 中学生の職場体験学習受入及び小中学校児童その父兄を対象に福祉施設の見学、体験 社会福祉協議会（生活困窮者（食品・給食支援）・就労支援・福祉相談（チョット寄ってん家））</p>
<p>かぎあずかり事業 地域交流イベント 施設イベント</p>
<p>施設を開放した元気アップ体操として週一で行っている校区福祉委員会と共に</p>
<p>『寝屋川高齢者サポートセンター運営協議会』の目的・参加メンバー（21団体）（別紙）②</p>
<p>各団体との仲介</p>
<p>自治会をはじめ上記丸印各団体と常に連携、情報交換を保ちながらの活動。（枚挙に暇ない） 高齢者の住居相談ケースの時、地域包括支援センターケアマネージャー、市、民生委員とのネットワークを組んで対応し、解決できたことがよかった。</p>
<p>困っている方に対して連携して対応している 情報の交換等</p>
<p>団体によって情報交換会を行っている 幼稚園、保育所と年に数回親子交流会を開催 地域児童は見守り活動、学校と情報交換会を年に3回実施 気になる児童の情報提供を学校へ伝える等</p>
<p>全メンバーが国際交流協会の会員になり、活動に協力しています。</p>
<p>会議、研修、地域ボランティア活動を通じて、顔の見える関係づくり。情報の共有による、相互理解に努め活動の幅を広げる。</p>
<p>居場所を利用する中学生から「学校を休みがちになっている」など心配な話を聞けば、事務局と情報共有を図り、連携している。</p>
<p>週に1回程度足りない備品や利用者用のお菓子を持ってきてもらっている。スタッフとコーディネーターのシフトを作ってもらっている。活動日誌をスタッフとコーディネーターが作成し、週に1回程度回収して読んでもらっている。会議やイベントの準備をしてくれる。活動している中で困ったことはメールや電話で聞いていただき回答してもらっている。</p>
<p>学校との連携ということ（オープンマインド、生徒たちの声を聞こう）として、市内中学校への訪問活動をし、生徒たちとの懇談を中心に各種悩みなどの相談を行っている。また、市の関係機関との再犯防止に関する推進計画に対する情報交換等も行っている。同じく警察関係とも各種情報交換もするようにしている。</p>
<p><更生保護女性会・BBS会>更生保護3団体の一員として連携して更生保護活動を行っている。</p>
<p><市役所>各種活動の支援や再犯防止推進計画の策定など、事務局機能を担っている。</p>
<p><警察、子どもサポートセンター、更生保護女性会、BBS会>合同行事を実施している（農園体験、もちつき大会、研修会、生徒との交流、薬物教室、矯正施設見学など）</p>

<p><学校>中学生に向けた薬物防止講演活動を年1回市の中学校で開催又は生徒会が生徒方と懇談会を年1回開催している。</p>
<p>経済支援</p>
<p>自治会については、住民のケース対応の中で連携することがあり、特にゴミ捨てに関わるような話は自治会に相談することが多い。</p>
<p>出前講座を依頼されることもある。</p>
<p>関係機関、団体等と定期的な会議を開催するとともに、個別ケースにおける日常的な連携を図っている。</p>
<p>市の自立支援協議会の中で、ひきこもり支援のワーキングとして会議を定期的に行い、市内のひきこもりに関する支援の充実を図っている。</p>
<p>実際の相談ケースで、必要に応じて連携を行っている。</p>

問7 他団体と連携・協力関係をとっていく中で、どのような良い点がありますか。

具体的にご記入ください。

<p>高齢者の方の生きがいの創造、子どもたちの高齢者の方への思いやりの醸成</p>
<p>各団体の強みが各々違うので特徴を活かした協力・連携を行うことができる</p>
<p>団体PR、埋もれた人材の発掘</p>
<p>自法人以外の事業に対する理解 運営者との情報共有</p>
<p>現在はなかなかできていないが、登園園児以外の子どもや保護者が来てくれれば当園のイメージアップにも寄与する。</p>
<p>園の取組を広く知ってもらうとともに、交流をもつことができる 園が相談を受けた内容をほかの団体と共有し広い視野で解決できる方向に向ける 核家族の中で育つ子供が多いので、お年寄り等の異年齢の交流につながっている 他団体との連携、協力関係を持つことで広い視野を持つことができる</p>
<p>地域の中を見守ってもらい、声をかけてもらうことがある</p>
<p>地域全体の子育て世代や未就学児との情報共有</p>
<p>地域の問題として扱ってもらえる 広がりがある 気づかない部分に気づけ発見することができる</p>
<p>他の団体ではどのような活動をしているかを知り参考になります</p>
<p>他団体との連携がより増していきます</p>
<p>地域の中での参加者が安心して（大人も子どもも）いる。子どもだけで食堂に参加している、また、地域住民もそれを温かく見守ってくれている。会場協力や備品も使用してもらいスムーズな運営ができる。助成金協力でもいい素材、材料を使用できる。多くの団体と協力することで色々な角度からの見守りができる。</p>
<p>発見してつないでもらえる。多様な視点で事例に関わっていくことで、可能性が広がる。他機関が協力関係にある人を紹介してもらえることで、つながりが増え、支援の幅が広がる。</p>
<p>他府県では実施のない量販店、小売り、スーパー、商店会が一緒になり活動しております ちょっとしたことで相談してみようと思えるようになる。 課題解決がスムーズになる。 お互いが気負わず、背負わずの支援体制ができる。 多角的に対応ができる。</p>
<p>関係機関への理解が深まり、スムーズにお互いの負担を配慮しながら連携体制を構築できる</p>
<p>地域の課題やニーズが把握でき、介護保険制度等の情報を提供することができる。</p>
<p>施設単体では解決できないことを他機関と連携をとることで問題解決につながる。</p>
<p>我々の専門外の知見を得られ、当事者（利用者）への対応が適切に行える</p>
<p>それぞれの団体が抱える問題点や解決方法を共有すると、同じような事で問題点を抱える団体の解決策につながることもある。</p>
<p>人の関わりが難しい中で知らない人とも関われる機会がある。</p>
<p>障害者を知ってもらう事ができた。 施設を地域に知ってもらう事ができた。</p>
<p>職員は自法人の利用者支援に視点が行きがちな傾向がある。他団体と合同で活動する中で障害者支援と違う視点（地域との共生、連携と協力等）の大切さに気付かされる事がある。</p>

関係（協力）者との情報共有が図りやすい 話がしやすい（相談等）環境が保てる
ご利用者へのサービスの幅が広がる サービスや支援が必要な方を発見できず 単独でできない事など、力を補い合える
様々な福祉課題に対応していくためにそれぞれの専門性や地域の特性を生かした活動を展開し、情報の共有と関係機関等の連携が取り易くなる。
情報の共有による、ひとり暮らし高齢者の安否確認。活動の周知
情報交換と伴に人としての繋がりが深化する
地域活動（横断的）とNPO活動（縦断的）の相互理解と連携ができました。 その結果、行政との協働・基本参加も実現。
地域の人々に事業や運動を発信していくにスムーズに進められる。
活動に関しての情報の収集
連携・協力関係にある団体と、それぞれの専門分野で協力関係をとることができました。
お互いの専門知識を活用し、問題解決が図られる
情報を共有し合うことによって、問題の解決に繋がられる、又、関係機関のスタッフと日頃から連絡をし合うことで相談しやすい雰囲気生まれ、助かることが多い
関係団体を通じての奉仕活動が可能となります。
福祉サービスを繰り広げる中で、独断的でなく地域ニーズに根差して行えているかという確認ができる。利用者にとって、幅広い選択枝を提供できるようになった。
居場所会議でコーディネーターの中に、地域ボランティアをしている方がおられ、その人達から、地域での利用者の様子を聞く事がある。その時に、居場所では知ることができない利用者の別の一面を知ることができ、対応に幅が出てくる。たとえば地域の催しに参加している時の様子を知ることができる。
連絡事項などを一斉にメールで送ってもらっているので注意事項やお知らせの共有ができています。
保護司の活動の理解が深まり、お互いの情報が共有することができている。
情報が得られ、親睦が深まる。
薬物防止講演は、早めに薬物に対応する正しい知識を身に付けてもらうため、有意義と感じる。若者が興味本位から手を出してしまうことのないよう抑止に繋がっている。また、生徒さん方との懇談は若者たちの意識や悩みを聞く事ができる場となっている。
各団体の強みが各々違うので特徴を活かした協力・連携を行うことができる。
関係機関への理解が深まり、スムーズにお互いの負担を配慮しながら連携体制を構築できる。
地域の課題やニーズが把握でき、介護保険制度等の情報を提供することができる。
当クリニックでは解決できない問題を共有でき、一緒に考えてもらえ、市内のひきこもり支援のあり方を推進していくことができる。
私自身も孤立せずすみ、いろんな方たちの意見を聞かせて頂くことで視野が広がり、業務を行いやすくなる。

問8 他団体と連携・協力関係をとっていく中で、どのような課題がありますか。
具体的にご記入ください。

特定の方や一部分など限定的な活動になってしまっている。 あくまでも1つの施設としての活動に過ぎず、地域福祉活動とは言えない。
連携、協力関係との歩調を合わせるのが大変
言葉を交わす機会や回数が連携力の強化につながると考え、情報交換の場の設置
連携の仕組みづくり 行事への参加等、コミュニケーション&密にすることの大切さを実感しています
団体の長が変わられると団体との関係が途絶えてしまう
今以上に施設の活動や内容を知ってもらう
ひきこもり当事者と、高齢あるいは障害がある家族と一緒に暮らしている場合も多く、一家全体を関係者すべてが見守っていく必要があるものの、直接かかわる対象者以外のことについては連携しにくいとされる場合もある。 社協生活支援課が強力な連携機関であるが、コロナ禍での対応を余儀なくされて、本来の支援業務に十分時間を取れない状況で、連絡も取りにくいのが現時点の大きな課題。
個人情報の共有範囲や方法について、認識を共有する必要がある。
現状の課題としては、コロナの影響で外部とのかかわりを持つことができない。今後どのような形でかかわりを持っていくか考えていく必要がある。

連絡を密にとる時間が取れない
例えば、外国人の方がいて通訳してくれる人いませんか？という問い合わせがあった時、ボランティア通訳の方の派遣の段取りはつけられるが、その費用はどこが負担するのかなど。費用面での問題。
校区でかかわってもらっているが、すまいるカフェは、施設がある自治会のみでの参加となっている。自治会外からも参加したい声があるが、広げられるだけのスペースと対応する人がいない。
課題と言うのかわからないがどのように繋がりを作っていいかわからない。
自治会等の地域の方々がより良い地域作りの為に福祉事業所に求める事は何かを知ることができればと思う。
立場によって異なる意見、見解の調整が難しいことがある。
個人情報の取り扱いが難しい時がある（深く介入できない）
互いの活動を詳しくはわかっていないので、多少のずれ違いはあるのかと思います
コロナ禍により各団体との接触及び会議等も中断、自粛され情報の共有が困難な状況になっています。
介護、医療従事者に対する偏見、誹謗中傷
地域福祉は市社会福祉協議会を中核として地域団体（地域協議会&各自治体）との連携が必須 （注）市役所内の縦割り解消が必須
「個人情報保護法」などが、時として活動の障壁になっている。
課題としては当校区では民生委員と福祉委員を兼ねている。そのため、福祉相談所や移送サービスなどと多岐にわたってきているが人的資源は昔と変わっていない。
定期的に会議、協議する機会が必要と思う
情報、こまごごと等正しく共有すること
気持ちはあっても、いざ法人が主となり責任をもって取り組んでいけるのかということに対しては、二の足を踏んでしまうところがある。
活動日誌を週に1回まとめて報告しているので、報告が遅くなることもある。緊急の際等には、事務局に直接電話して対応してもらっている。
お互いに目に見えた活動につながっていると思う。
保護司の活動は福祉活動全般と違って難しい点も多い。
個人情報の共有範囲や方法について、認識を共有する必要がある。
立場によって異なる意見、見解の調整が難しいことがある。
担当者が変わると、また一から一緒に積み上げていかななくてはならない問題がある。
双方の考え方に違いがあるときは、どう折り合いをつけていくか。

問9 今後、連携・協力関係をとっていきたい団体はありますか。（該当するものすべてに○）

項目	件数
自治会や町内会	22
校区福祉委員会	20
地域協働協議会	15
ボランティア・NPOなどの福祉活動団体	19
福祉ニーズや課題をもつ当事者や団体	14
福祉の施設や事業所	16
医療機関や薬局	18
学校・幼稚園・保育所	21
商店、新聞販売店、宅配業者などの事業所	16
寝屋川市、大阪府などの公的な機関	21
その他	11
特にない	7

問 10 連携・協力関係をとっていききたい団体とどのような活動を行っていききたいですか。

具体的にご記入ください。

福祉活動を一部の人がする、関わるものであるという認識をもう少し関心の輪を広げ、日常として当たり前ものとしてとらえてもらいたい。そのためには必要だから、必要になったから関わるということではなく、日常生活中で目に触れる場や機会があるようにしていく方がよいと思う。そのために多くの人を利用する商店やモールなどといったところと連携し、当たり前のような活動、関係が築けるようにしていきたい。（車椅子体験、視覚障害の体験など）
子ども食堂 高齢者の食事配食 子ども研修（幼児～小学生低学年を対象に「遊び」＋「勉強」の研修） 施設訪問
子育てと介護の両立が難しく悩んでいるケースについて、連携して解決につなげていきたい。
地域活動、避難訓練、地域課題の解決を考える会議等を開催するとともに、個別ケースを通じた連携などを行っていききたい。
各法人は事業に対しての専門性はあるが、それらは自事業以外に対しては基本学ぶことが少ない。そのため、異業種との交流の機会により、自身の強みの再確認であったり、自事業への反映を行うことで視野を広げることができる。その結果異業種との連携の機会も得ることから新たな地域貢献への取組にもつなげていけると考える。
近隣の幼稚園や保育所と北ブロック幼稚園、保育園、保育所交流会を行っており、今後連携をさらに強化して情報交換等拡大していきたい。
地域活動への参加 医学的研修等
地域の催しものへの出店などを行い地域の人々とのつながりを持っていきたいと思います
子ども食堂や支援を必要としている家庭に地域の企業や商業施設からの直接の食糧支援や助成金を協力して頂きたい。少しずつですが企業からの協力も単発的に得られるようになっていきます。
不登校学生・生徒への連携対応
我々商業者はほとんど寝屋川市以外から移住してきて寝屋川市で商いをさせていただいているいわばよそ者です。今後も寝屋川市の発展を望んでいるからこそ、ここに住人で商いをしているのです。どの団体も活躍されています。協力関係云々というより、ともに一つになれるよう努力していかなければと思います。
地域共生社会を見据え、地域に必要な居場所づくりを行う。 スーパー、商店等に認知症に対する理解を深めてもらう取組みをしていきたい。
支援を要する人の早期発見、早期対応につながるよう、特にひとり暮らしや介護を必要とする家族(高齢者)がいる世帯への見守り支援を行っていききたい。
基本は今までかかわりのある団体は継続して連携、協力は必要と考えている。コロナの影響で今後再開してからの関わり方を考えていく必要がある。
地域の福祉ニーズを収集して、我々が協力できることを検討したい
多文化共生社会を実現するために、地域の外国人市民との共生について、みんなで考えて行きたい
福祉業界にもっと人が来てくれるよう色々な面でアピールしたい。(やりがい、給与面等)
1、2、現在のかかわりを続けて行きたい。 4、取り組み内容も含みでかかわりをもってもらえる方を増やしたい。
行政機関、医療福祉関係、企業など日々の利用者支援に必要な関係機関とは現在も協力関係がある。地域の自治会や商店等は障害の理解啓発にも繋がるのでイベントや販売等で協力していきたい。 障害の理解啓発の為に学校等の教育機関との連携もできればと考える(特に令和4年度から、高校の学習指導要領の中に、「精神疾患の予防と回復」が盛り込まれるようになった。予防や早期発見も大事だが、精神疾患を持ちながら生きていく人権教育も大事。府立高校に働きかけを行いた)就労支援においては実習先の協力企業の開拓が必要となっている。実習の受入れをしてもらうことで障害者数労の理解啓発と雇用の機会創出につながるため引き続き取り組んでいきたい。
社会福祉法人(高齢者施設事業所)としての機能、役割を果たす上で必要な関係機関(関係者)との連携はとれている
1・3 小学校の夏祭りに運営協力 8 教育の中に福祉の体験などの協力 その他前述の通り

自治会や町内会で福祉相談（各関係機関への紹介）等、福祉制度、サービス等に関する情報を住民にわかりやすく提供すること。
<ul style="list-style-type: none"> 福祉の仕事に対する、イメージを変えるような活動 学校（学生）への周知活動
引きこもりの対応は回復するまで長期間を要します。又大勢いらっしゃいます忍耐を持って協力者が疲弊してしまいます。プライバシーの配慮も重要です。 引きこもりの方々への接点を持つ機会として気軽に交わる場作りの必要性を感じています。良き隣人としての取組がスクラム組んで伴に明るい将来に向かう（8050 問題）
<input type="checkbox"/> 担い手の発掘 → 寝屋川市（広報活動） 介護予防サポーター） → 校区福祉委員会（市社協） → 民間企業（副業・テレワーク） <input type="checkbox"/> 資金調達 → 寝屋川市（ふるさと納税）+（クラウドファンディング型） → 寝屋川市・有力民間企業 企業版ふるさと納税（新設） → 社協（善意銀行） → 民間企業の経営者団体（青年会議所 ロータリー等）
地域をより良くなる事業や運動が共に出来れば。
日頃から地域のつながりを強くしていくために子どもから大人まで積極的に声を掛け合う活動を推していきたい。
情報交換 例えば一人暮らし高齢者の発見死亡等については自治会から情報も提供してもらおうなど
住民同士の情報交換会（井戸端会議しゃべり場） 学生ボランティアとの交流 防災に対する連携を密にする
連携・協力をするにあたり、団体の特定はしていません。 活動内容がロータリークラブの目的・理念に合致すれば連携等ができると思います。
近い将来困りごとが発生しそうというケースの共有の場面を持つ活動に取り組んでいけたらと思います。
問題を抱えている事への専門的なアドバイス等の積極的な関係作りが出来たら良いと思う。
<医療機関、薬局関係> 我々保護司の活動がもっともっと理解していただくようにしたい。医療機関や薬局関係とは薬物事犯者が多くいるのでより連携したい。
<生活保護> 刑務所、少年院を出てきたものがすぐ就労できなかった場合、短期の生活保護受給の相談に何う場面があると思われます。
<校区福祉委員会> 就労支援、地域との人材情報
<協力雇用主会> 現在、保護司会組織の中に協力雇用主会があります。少年院を仮退院、刑務所を仮釈放した人々が再犯防止のため、落ち着いた生活を維持できる事が不可欠です。矯正施設から出所した人の中で、職が決まっていない人も多く、あらゆる業績の会社事業所へ協力依頼し登録数を増やすため、理解を求める活動をしていきたいと思います。
子育てと介護の両立が難しく悩んでいるケースについて、連携して解決につなげていきたい。
地域活動、避難訓練、地域課題の解決を考える会議等を開催するとともに、個別ケースを通じた連携等を行っていきたい。
地域共生社会を見据え、地域に必要な居場所づくりを行っていきたい。
スーパー、商店等に認知症に対する理解を深めてもらう取組みをしていきたい。
支援を要する人の早期発見、早期対応につながるよう、特にひとり暮らしや介護を必要とする家族（高齢者）がいる世帯への見守り支援を行っていきたい。
個別ケースの支援についての連携 市域のひきこもり支援の底上げのための連携 ひきこもり支援に必要な資源の創出

問 11 貴団体で地域とのかかわりのある活動をされる中で、どのような支援が必要だとお考えですか。

認定こども園や保育園は寝屋川市内においては「子育て手支援事業」という名の補助制度があり、地域に対しての子育て支援を行っています。その事業に主体的に参加してくる方はある種健全であると言えます。そういった施策などの「網」にかからない人々の支援が必要となってきますが、それらが民間のボランティアや行政に任せている部分が多々あると思います。その辺をどのように支援、サポートし、公的な施策につなげていくのかという仕組みづくりを体系化していく（有償など）ことも必要かと思えます。
市社協がバイパスの役をお願いしたい
コロナ禍で対面により活動できる場が減っているため、テレビ電話などのオンラインシステムの構築が必要である。
安価なまたは無料の場所&機材
初回の取組は実施しやすいが、それらを継続させるための体制づくり。そのために地域貢献員（法人内で事業人員でない者）を設置することで、それに特化した職員として事業継続することができる。（基本法人が努力して収支を挙げて余剰で雇うことが望ましい）
ボランティアさんの受け入れ 地域事業への参加
地域の声が入ってきやすいように、地域の方と気軽に話ができる場が必要だと思います
どのような活動があるのかを知らせていただければ参加されるものには参加したいと思っています。
若い世代（子育て）何か困っているのだけれど、自分で発見できない。そのことが当たり前になりどうしていいのかわからず、そのまま暮らしている。結果として子どもが成長に必要な環境を知らずにそれが普通になりSOSを出せなくなってしまふ。立て直しにも多くの時間を必要としてしまふ。初期の段階で対処できる支援体制が必要だと思います。
福祉は担当する1人1人自身が社会資源でもあるので、困りごとを積極的に発見していこうという姿勢を持ち、困りごと聞いた以上は聞き流さない、協力が可能な人や機関を探し、できることできないことを整理して相談者に返し、自分が行うことが適当な支援を継続して行うことが必要
寝屋川市の発展は産業商業が力をあわせて明るい街づくりができれば。（道の駅づくりなど）
地域とのかかわりのある活動をするのは、商店街や、商店です。自治会や地域協同協議会の理解を得たうえでボランティア事業、イベント事業、販促事業を実施するうえで、連携できればと考えます。商用連としては、その情報を認識し、各団体に協力していただけるよう要請すること以外あまり口出しはしたくありません。
介護予防の推進のための集いの場や運動の場と、そこまでの移動手段的確保が必要である。
社福として幅広く、地域とのかかわりが必要かと思う。法人で持っている事業を最大限活用し、地域で困っている方々の支援が必要である。介護、障害サービス以外に制度からもれてしまうような方々にも相談、支援をしていくようにしないといけない。
定期的に活動の内容を確認し、改善策等の提案をしてもらえるコーディネーターの参画
外国人市民について抱える問題は、それぞれの地域でよく似た問題がある。 例えば、ごみの出し方、当番、自治会、など情報共有をする事で解消できる事があるのではないかと思います。 みんなで共生について取り組んで行ければと思います。
障害に対する理解。そのためにも、まず自分達から発信していきたい。その場があれば尚、良いなと思います。
取り組みに賛同し、かかわってくれる人材 取り組み内容のアイデア
自治会や地域の事業者との繋がりを作る支援。 様々な機関との合同イベント等の開催におけるパイプ役が必要。 それぞれの法人の得意なところや不得意なところを補い合えるようなマッチングのサポート。 校区福祉委員との連携する機会(昨年、校区福祉委員会のボランティア部会でコーヒーレクチャーをさせていただいたが、地域の方と交流することで、それぞれの取り組みを知ることができるよい機会となった。今後も校区福祉委員会とつながる機会があればと思う)
現時点では特に思いつかない 施設部会等で課題について意見はあるかと思いますが・・・。
認知症カフェをより広く知ってもらう為に地域ごとにまとめて広報して頂きたい。 予算が付けば嬉しいです。
関係機関と連携して、支援や見守りを行う 生きがい健康づくりの活動 誰でも気軽に参加出来るように自然に交流が出来るようなイベントなどの開催

近隣、商店や配達員、配食スタッフ等ちょっとして安否確認体制充実、毎日の声かけ 認知症による徘徊の支援（危険リスクへの回避）地域を巻き込んでの対策
防災（災害等）活動
若い方、ゆとりの在る高齢者が集い出来ることに取り組む
<input type="checkbox"/> 地域福祉計画と地域福祉活動計画の2本建は市民から見ると解りにくい。 →一本化が望ましい。地域福祉計画の項目で社協が責任を持つ『活動計画』の明確化 <input type="checkbox"/> 第4次地域福祉計画と第3次地域福祉計画の年次の統一 （注）第4次では『基盤強化』の柱として市と連携した『社協』が主役になっています <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会の『校区福祉委員会』と地域の『自治会』との連携と役割分担の明確化が必須。
人材の紹介
地域住民が「我が事」として認識し、具体的な取り組みにつながるよう住民主体の支え合いの地域づくりを進めていくため個々の取り組みだけでは限りがあることから様々な団体との連携を推進して強化していくことが必要です。
情報の提供（特に一人暮らし高齢世帯の名前、住所など）
活動者の負担軽減の為、人材の発掘、増員が必要 精神面から活動する中で自分（達）も楽しむことを伝え発信する
施設へのボランティア活動をお願いしているのですが、出来ることなら地域へのボランティア活動を、担っていただけるようになっていけたらと思います。 施設の手手が足りないという問題もあるのですが、地域を支える、支え合うということも、少しずつ実践を積み上げていけたらと思います。 支援としては、マネージメントをお願いできたらと思います。
地域の大人が、常に子どもたちに興味をもち、見守る気持ちをもっていただくことが大事だと思う。
ハピネスは現在、こどもセンターの3階にある。家にいたくない、あるいは家に居にくいという子ども達が来れば温かい飲み物、おやつもある。“居場所”がもっと便利な所があれば立ち寄りやすいのではないかと思う。そのためにも、地域の応援、理解が必要になる。
とにかく保護司会などを知っていただきたい。
コロナ禍で対面により活動できる場が減っているため、テレビ電話などのオンラインシステムの構築が必要である。
介護予防の推進のための集いの場や運動の場とそこまでの移動手段の確保が必要である。
市の予算 集まれる場 理解者・支援者を増やすための研修

問 12 普段活動されている中で、地域の人々からどのような日常の困りごと、地域の問題などをお聞きしますか。

また、その課題で、年齢や地域、家族構成によって違いがあればお書きください。

問 13 その中で、貴団体が対応できるもの・対応できないものにはどんなことがあげられますか。

【日常の困りごと、地域の問題】	【対応できるもの】	【対応できないもの】
我々保護司が扱うケースは高齢、生活困窮者、就労支援必要者が多く、地域との関わりが持てない人が多いため、関係団体等の連携がより必要に思う	就労支援に関すること（保護司会組織の中に協力雇用主会という就労支援事業者が約 50 社加盟しているため協力できるのではないかな）	生活保護に関すること
	子育てに関して、本人が非行行為をしたり、非行に陥りそうな者のいる家庭の相談を受けることができる（現在も相談所開設中）	
校区福祉委員会と老人クラブがツーカーの地域と全くそうではない地域があります。また、地域協働、福祉委員会と林立し、同じような課題について縦割り行政が無収のボランティアを使っている状況が垣間見える。マンパワーとお金の集約ができる組織に統一できないものでしょうか。		
保育園はスマイルサポーターという制度があるが、実績として挙がってくるものはほとんどが子育ての悩みも、自分の親や保育園等ぐらいしか聞いたり相談するところがなく、親同士が悩みを共有し、自ら解決していくような親同士の連携なども少ない。どうしても自らの仕事が優先となり、仕事におわれて保護者会などもなくなってきていて園に入園していても孤立してしまっているような家庭もあるのではと感じる。	学期ごと年 3 回保護者へのクラス懇談会を設置して、保護者同士、園と保護者達との交流・情報交換の場を持つことで園内での孤立化を防ぐ	地域で孤立化する家庭（入園していない方）の掘り起こしやサポートし子育て対策事業等に自ら参加しないでサポートを必要としている方
周りの住民の利用者に対するクレーム 周りの住民は高齢者が多い	子どもについて、利用者についての相談事	高齢者の相談事
ひとり暮らしや高齢者世帯への介護、生活支援サービスに関する相談が多い。	介護保険に関する支援が可能である。	
	80 代の方への支援を通じ、50 代の方を間接的に支援していくことが可能である。	50 代の方に対する直接支援や 80 代の方が施設に入る等、50 代の方が 1 人で在宅生活を継続する場合の支援は難しい。
認知症に関する相談が多い。貧困の相談が多い。精神疾患を抱えている人からの相談が多い。		

【日常の困りごと、地域の問題】	【対応できるもの】	【対応できないもの】
スーパー・市場が遠いので買い物が大変。高齢なので病気になる不安	こまめな見守り、情報集め	買い物の手助け、少し高くなるがタクシーの利用、ネットが出来れば通販の利用
独居の高齢者への情報提供。（各種の支援内容、今回であればコロナ支援など）	地域から情報を聞けば対応ができる	民生委員や自治会などから情報がなければ対応できない
直接地域福祉とは関係ないが、保育園の送迎の自動車、自転車の駐輪、注射で常に地域住民から苦情が出る。朝・ター時間ずつシルバー人材センターの応援を得て、対応しているが、地域の問題（道・マナー）で解決が難しい。		
子育ての悩み 子ども発達について 家庭内でのもめごと 生活困窮	スマイルサポーターが話をきき、上記の内容の対応をしている 継続して様子を見守る内容やほかの期間につなげるもの、その場で解決できるもの等さまざまである	
以前はよく「入園したいがどうすればよいのか」という相談がありましたが、今は市の待機児童0プランのおかげでそういう困りごとは減ってきました		
施設周辺の交通安全 少子高齢化	交通安全教室や周辺の見守り	
子育て世代 ベビーカーごと入れるトイレがない（役所、リラットなど） 駐車場がないと行きたくてもいけない 気軽に相談、意見が伝えられるシステムがほしい（電話は意見を伝えるににくい） 健診の集団の意味（福祉センターまで遠い、東寝屋川） 書類の手続き（アプリなど） タクシー券などほしい		
ひとり暮らしの方、夫婦のみの方が多い（高齢者の世帯が多い）ので遠出がむずかしい	老人の集いの場の提供ができている	もっと多くの人が集まれる場があればと思います
子どもの育て方 子どもの人間関係（いじめ） 貧困問題	子どもの育て方→ほかの子どもの育ちを知り安心感をもってもらえる（つどえる場づくり） いじめ問題→話をきき、関係機関につなぐ	基本的な貧困問題の解決
地域の人々から直接相談をお聞きする立場ではないが、支援者の一員になっていただき、ともに活動している場合はある。そうした中で単身であったり高齢者と同居の中で孤立している事例を心配されている声はお聞きする。	CSWさんと連携した孤立している人への働きかけ。	連携できる人がいない中での単独の支援

【日常の困りごと、地域の問題】	【対応できるもの】	【対応できないもの】
認知症高齢者等の近所に対する迷惑行為等の近所トラブル。 ペットの預け先や引き取り先がない（特に経済的に余裕がない人）		経済的支援はできない。
スーパーのセルフレジ等、高齢者が戸惑うこともある。 8050問題といえる複数の課題を抱える世帯も多くなってきている。		移動手段の確保はできない。
特養として、直接地域の方から相談を受けるのは入所の相談がほとんどである。 入所以前の相談は包括、居宅で対応をしている。	入所の相談を受ければ、入所申し込みの支援や、受け入れを行う。	対象者の家族の支援
介護サービスにどんな種類のものがあるかわからない。 どうしたら介護サービスを受けられるのか 高齢者のみの世帯からの問い合わせが多い	地域包括支援センターや居宅事業者へ連携させる	すぐに何とかしてほしい、とか、今困っている等緊急性の高い相談に我々だけでは対応できないこと
地域の人々から話を聞く機会はほとんどありません。	外国人市民への日本語教室の案内 外国人のための生活相談	
あまりきいたことがない。	日中の活動の中で	私生活の様々なこと
・地域の高齢者の方から毎月でも参加できるものがあればという声を頂いているが、現状は、むずかしい	現状	いまより回数、対象者を増やす事。
高齢の親が障害のある子を抱え生活している (親が80代、子が50代) また障害のある子が高齢の親を支えている (親が認知症、子が障害当事者) 「ひきこもっている期間が長くあり将来が不安だが、どうしたらいいかわからない」(当事者より)	障害当事者への支援 高齢の親への繋ぎの支援、各機関との連携支援 将来の生活に対する相談や福祉サービス事業所の見学や体験の紹介	高齢の親へのダイレクト支援
	通いの場等社会参加活動のうながし。 独居高齢者家族への現況連絡。	
高齢者介護に関する相談に対応。 現時点で地域の問題や課題に対しての聞き取り		
いわゆる8050問題 又、コロナで地域に行き場がなくなったという声は聞きます	お会い出来ない方には手紙を出したり、電話するなど様子伺いをしています。コロナ感染リスクが落ち着けば直ちに再開したい。(リモートで体操教室を再開しようと試みたが諸問題で実現できず)	50代の引きこもりへのアプローチ、支援は難しい
高齢者夫婦世帯や独居生活の方で、年金のみで生活し、金銭的に厳しいという方が増えているように思う。又、その方々の子供たちも自分の生活を支えるだけで精一杯、親の金銭的支援が難しい状況がみられる。	支援が必要な人を行政機関や福祉の専門機関につなぎ、関係機関と連携し必要な介護サービスの情報提供。	経済的支援

【日常の困りごと、地域の問題】	【対応できるもの】	【対応できないもの】
福祉の制度、施設の情報	他機関へのつなぎ	
ヤングケアラーの手助けや協力の体制作りを行う	ヤングケアラーに重荷を持ち、共に生きる協力者が在りたいと願う	リーダーとして主を担う方が必要
ひとり暮らしの高齢者（昼間独居含む）からの支援依頼が多い。男性の一人暮らしは悲惨 →家族の非協力 高所掃除 ゴミ屋敷等	ゴミ屋敷（都度見積もり） →多人数での対応（限界あり）	身体介護が絡むもの（医療行為はお断り） 専門業者が必要な場合は対応、お断り
この設問で市民から直接声を聞く機会が少ない事を痛感しました。 多くの声を聞いて活動に反映させていきたいと思えます。	何でも	
経済的・・・生活保護受給世帯より（8050問題） 認知症に関して・・・近隣住民よりの相談 子育てについて・・・近隣住民よりの相談	程度により、いずれも傾聴から相談、関係機関の紹介へ。	
民生委員宅に訪問される		
家族の認知症・・・夫婦、娘の三人家族、夫が認知症（70才代） 引きこもり・・・母、息子の二人家族、同居の30才代の息子が引きこもり状態（約10年引きこもり）	関係機関へ繋げる	家族の同意が必要
どの団体もメンバーの高齢化、世代交代に課題があり、また地縁的つながりの希薄化、プライバシーの件など、地域活動やボランティア活動がやりづらい環境になってきていると感じます。	理解を得たうえででの奉仕活動（間接的なもの）	直接的な奉仕活動
地域柄としては、まだ若い地域ですので、人に対する問題というより、防犯上の問題がクローズアップされています。	地域の中では、古くから立地していますので、連絡をとるなどということは出来ることです。	
・「しっかりと耳を傾けてくれ、自分のことのように一緒に考えてくれる相談員と出会ってこず、相談することをあきらめてしまっていた」という問題。 どうしても相談にのるスタッフは、自分の機関でできるかできないか、という判断だけで相談を受けたり断ったりしてしまいがちだが、自分の機関の役割を少し超えつつ、必要な機関へつながるまで関わる、という姿勢が必要と思われる。 年齢や地域や家族構成に違いはない。	基本的にはどんなことでもまずは対応。	基本的にはどんなことでもまずは対応。

その他

<p>すべての人が積極的に人と関わろうとしている人ばかりではないと思います。そんな人にこちらからおせっかいのように関わっていくとよけいに貝のように殻を閉じ、かわりを遮断してしまうことになると思います。そのためには福祉サービスは縁遠いものではなく、もっと自分にとって身近なものであると実感してもらい、目に触れる機会やちょっと関わってみようかな、と思ってもらえるきっかけが必要だと思います。また、担い手にとってはもっと福祉活動は温かみもあり、魅力的でやりがいもある活動や仕事なんだと思ってもらえるような広報、環境が必要かと思えます。いつも言っていますが、福祉＝ダサいでは人は集まらないと思います。</p>
<p>団地の住民同士は顔なじみも多く、住民同士が声を掛け合って地域カフェに誘うなど、助け合っているという地域支援の輪があるところもあれば、住民同士のつながりの薄い地域もある。高齢者になると孤独になりがちなので地域の輪が広がるような地域になってほしい。</p>
<p>若い人たちが地域福祉のボランティアに参加できる土壌</p>
<p>コロナの情報が一般の方に流れないのが残念です。社協として、老人に対する広報をしたらいいと思います</p>
<p>人のつながりや思いやりを大切にする地域であってほしい。 地域の人は要求するばかりではなく、協力や担い手の参加を進んで行き、お互いの思いやりを持ってほしい</p>
<p>せっかく創設してくださった未来福祉ねやがわプランが今年度は止まっており、再開して頂きたい</p>
<p>高齢者が30%近くなり、寝屋川市も少子高齢化に歯止めがきかない状態です。老人ホームや特養ホーム等も建設されていますが、地域ごとにケアマネジャーやデイサービスの方々がいっぱいいることは聞いていますが、我々事業者には全く分からない。入所状況や有料が無料の施設は何処か等ある程度知っておくと、地域の方とのコミュニケーションもとれるのではないかと。また、連絡もしてあげると喜ばれる。</p>
<p>「地域」「医療」「介護」の災害対策を進めていきたい。</p>
<p>自治会の中の班単位ぐらいで近隣の住民がお互いにどんな人が住んでいて、どんな支援が必要かをキャッチできるような環境になればよいと思う</p>
<p>色々な団体が連携しながら、課題や問題の解決をしていくことで、住みやすい豊かな多文化共生の社会が実現出来ればよいと願います。</p>
<p>近所の方が目をむけて見守ってほしい。 様子がおかしいと思ったらすぐ役所に連絡してほしい。</p>
<p>皆が笑顔であいさつができる地域になってくれれば良いと思います。</p>
<p>高齢者、障害者、子どもの集える場所</p>
<p>犯罪者を生まない社会 尊厳と人権が守られる社会</p>
<p>今ある社会資源を地域住民が広く知っていて、気軽に利用出来る様な地域が理想だと思います。</p>
<p>住み慣れた地域で安全安心に暮らし続けるための介護や医療、住まいの生活支援の提供、地域包括ケアシステムの充実</p>
<p>施設が気軽に入出できる環境づくり</p>
<p>先日 NHK の朝の番組で秋田県大館市の取組が素晴らしいと感じました 認知症の高齢者が徘徊で行方不明防止の対応です。普段から上着の襟首（背面）に QR コードを本人には目立たない様に縫いつけ、帰り道が不明な片を見つけた時に目印の QR コードで自宅住所を確認する。（私の職場に来られる営業マンの母親が行方不明になり約2年間も行方不明と聞きました）</p>
<p>1. 令和2年10月の提言（具体的事業内容） 2. 中期福祉計画（全般）についての提言</p>
<p>今回は災害時に連携して対応出来るように事前に対応や連絡網を構築させていただければと考えています。</p>
<p>官民ともに福祉活動は充実していると感じるが、制度、サービスなどが十分市民に届いていないと思える事例も多くあり、さらなる広報の重要性を痛感。</p>
<p>昔「向こう三軒両隣」といわれたように近所等親しく交際する地域にまたなってほしいと思います。</p>
<p>少子高齢化が進む中、一人暮らし高齢世帯、老々介護世帯が増えている。 このようなときこそ、近所が付き合いを深め助け合うようになってほしい。 また行政においてもこのような方々が安心して暮らしていけるよう福祉施策の充実を計っていくよう希望する</p>
<p>福祉、教育、子育てが充実した高齢者、若者が住みやすい町、寝屋川になって欲しいと思います。</p>
<p>互いが思いやれる地域 三方よしの精神にある自身・相手・地域すべてにメリットが生まれる社会を望みます。</p>
<p>障害があっても、地域の担い手としてできることはないかと考えています。お互いに支え合うという視点で、取り組んでいきたいと思っています。</p>

<p>こうなっていたらいいなという期待を、記入させていただきました。責任もって動いていけるだけの、力量があれば良いのですが、お恥ずかしい話ですが、なかなかです。</p>
<p>虐待、引きこもり等、家庭の中で様々な問題が起こっている。それを一番身近に察知できるのが地域の人々である。でも、いろいろな事を見聞きしていたりするのだがプライバシーの問題もあり、立ち入りにくく、情報としてあがりにくい所がある。どこまで問題化するのか悩ましい部分がいっぱいあるが、そんな情報を拾い上げ、福祉活動に繋げられるようになってほしい。</p>
<p>地域全体の関係団体が一つになれるように絶えず連携できることを望む。</p>
<p>犯罪者を生まない社会</p>
<p>尊厳と人権が守られる社会</p>
<p>団地の住民同士は顔なじみも多く、住民同士が声を掛け合って地域カフェに誘うなど、助け合っていこうという地域支援の輪があるところもあれば、住民同士のつながりの薄い地域もある。</p>
<p>高齢者になると孤独になりがちなので地域の輪が広がるような地域になってほしい。</p>
<p>「地域」「医療」「介護」の災害対策を進めていきたい。</p>
<p>市内在住のひきこもり体験者が他の市でひきこもり支援を行っているが、当市域でも活動できる場や予算がほしい。</p>

子育て支援に取り組まれている3団体については、異なる内容でヒアリングをしているため下記に記載します。

問1 寝屋川市の子ども達の現状や取り巻く状況を見て、現状（よいところ）について、日ごろ感じていることを教えてください。

市立小中学校における授業ライブ配信の実施 産前産後のサポート体制（妊娠検診費用の助成など）
HP、もっとネガティブや広報等で相談の窓口がどこかわかりやすく、コロナウイルスの対応等の情報発信が丁寧でわかりやすいと感じます。 ゼロプランで待機児童ゼロのとりくみをしているところもいいと思います。 小中一貫校や、企業（グリコ）との子育てプロジェクト等、新しい取り組みを積極的にしているところ。
校区ごとに福祉委員会の方々を中心に行っておられる子育てサロンや学校の登下校時の子ども安全見守りたいなど、子どもの健全な育ちと、高齢者の方々のいきいきとした活動が同時に実現するような取り組みが盛んなこと。
地域福祉活動の中でも、子育てのお悩み相談や、地域の方と参加できる活動（子育て）の様子をインスタグラムやツイッターなどに発信することで気軽に寝屋川市の活動を知ることができる。
子育て世帯の方が子育てに悩んだときに相談できる場所が様々な場所にあり、また子育てされている方が気軽に集まりコミュニティを持てる子育てイベントや企画が多くあるところ。地域が一体となって子育てを支援しているように感じられる。
1クラスあたりの園児や児童が少ないため、手厚い保育・教育を受けることができる。また、保護者とのコミュニケーションの機会をとることができている。
リラット、つどいの広場等の施設が充実していて、他の子どもと交流できることが、子どもにとっても親にとってもありがたいと思います。子育てサロンで地域のお年寄りや交流できることもいいと思います。
つどいの広場や子育て支援センターなど数多くあるのではじめての子育ても子どもと向き合いながら一日一日すごせると思う。
他の市より、子育て世代にとっても優しいと思います。また、市民の声をすくすく上げて実現してもらえ環境にいるので、とても心強いです。つどいの広場の先生方に何気なく相談しても自分のことのように考えてくださり、窓口になってくださってありがたいです。
つどいの広場やこどもセンター・リラットなど子どもが楽しめる場所、また親同士の関わりを持てる場がたくさんあるところ。子育てしている親にとって、同年代の人、子どもと関わるができる場、相談に乗ってもらえる先生がいることは非常に心強くありがたいと思う。
子育て支援拠点が充実していたり、医療費助成制度も他市より手厚く魅力的だと思います。
子どもの集いなどでたくさんママ友ができて楽しく過ごさせています。はじめての子育ても不安がありましたが、先生たちにアドバイスもらえてリフレッシュできて嬉しいです。
スマイル塾は良いと思った。公立幼稚園の人数が減ってきており、この先が心配。
オンライン授業へのとりくみなど、スピーディな対応はとても良いと思いました。
通学路に子どもたちの通学を見守る保護者が立っている。
PTA活動を通して知ることができましたが、子どもの周りにはたくさんの支援団体があり、成長に沿った「体験」を学ばせていただいていることをありがたく感じている。（アイマスク体験、車いす体験、高齢者擬似体験など） 様々な子どもの居場所に関する取り組みもあり、恵まれている環境だと感じている。
今、コロナの大変な時期だけど、急な休校でもすぐ対応していただいて、iPadなどでリモート授業ができて助かる。
時代の流れに合わせて臨機応変に対応していると思う。私達が思っている以上にSNSをうまく使い、情報交換をしている。
子育てについて気軽に相談できる。育児の不安や悩み、しつけ、子どもの生活習慣等。子育て支援に関する情報を得ることができる。

問2 寝屋川市の子ども達の現状や取り巻く状況を見て、現状（課題）について、日ごろ感じていることを教えてください。

寝屋川市駅付近に若者が集うような場所や雰囲気がない。→高齢者が多く、活気あるようには感じない。 外に出ずこもっている子育て家庭へのアプローチ 公園等、公共施設の整備
認定こども園で地域の子育て支援の取り組みをしていますが、今年はコロナのこともあり、施設への訪問者が少なく、施設を利用していない家庭に向けての支援が難しい状況であった。当園の課題というところもあるが、コロナ禍でも安心して子ども達が集う場所は必要だと思います。
親が地域とのつながりに拒否的であったり、世間体を気にして自らSOSを発することができない生活困窮家庭で育つ子どもの貧困。 生活改善に必要な支援情報が届かず、子どもに十分な教育の保障が行えないまま大人になってしまう子どもがどれくらいいるのかと心配。
ネットの情報の発信ばかりでは子育て家庭のやりとりが薄れて情報の一方通行になりがちな課題がある。
これから少子高齢化がますます進み、寝屋川市の高齢化率は現在全国平均を上回り、このまま上昇していくことが予想される。その高齢者を支えるのは今の子供達であり、そのような厳しい社会の中でいきいきと活躍し、生きる力の基盤作りが重要課題であると感じられる。
安心して地域で子どもたちだけで遊べる環境が減っている。少子化が進み、同年代の友達と遊ぶ機会が学校外ではほとんどないこと。
地域の方がいろいろと考えて頂いているのはありがたいですが、今の感覚と少しずれているところもあるので、少し気になります。 電信柱が多い。
自分にあった広場やセンターを見つけるのが難しい。
缶、ビンの日、地域の方だと思うのですが、自転車でアルミ缶を集めに来られます。多いときは30分に2人くらいこられて、出ているゴミ袋の中からアルミ缶だけ取って行かれます。とても効率が悪く思います。集めに来られている方々も時間の無駄なのでは、と思ったりします。
就学すると、つどいの広場などが利用できなくなるので、小学生が利用できる施設や場所がもっとあればよいと思う。
周知されていないように感じるので、もっと発信していくべきだと思います。
スマイル塾は無料で良いと思った。公立幼稚園はのびのびした子ども達ばかりであることを知ってほしい。
大きな声で元気に挨拶がそのまま身につけていけるよう、交流の場を望みます。
SNSで情報だけが先走りしてしまい、その情報を鵜呑みにしてしまい間違った情報や噂だけでそれを本当のことだと思いこんでしまうこともある。
安心して子どもを生み育てることができるように関係機関との連携などが充実したらよいと思う。

問3 上記でお答えいただいた中で、よいところをより向上させたり、課題を解決していくために、今後必要だと思うことを教えてください。

寝屋川市駅付近については、枚方市駅のような若者が集えるような雰囲気や店を配置するなどして、寝屋川市で子育てをしたいと思えるようにする。 子育て家庭へのアプローチについては、養育支援事業をされていることは把握していますが、保育園やこども園等、地域との連携にも繋げてより子育てをサポートできるような体制をつくる。
情報発信と安心して利用できる工夫だと思います。 各園だけでなく、関係機関と連携をとって子どもに関する取り組みを広げていけたらと思います。 ゼロプランで保育士の処遇改善もしていただいておりますが、担い手である保育士の採用に苦労しているため、寝屋川で長く働きたいと思うような制度があればと思います。

<p>保護者が相談先を選べるよう、多くの関係機関が連携を強化すること (個人情報取り扱い方を明確に) 保護者が生活改善の必要性を自覚し、前向きに進めていけるような見通しが持てるわかりやすい情報提供 子どもへのアプローチで支援のニーズを探る取り組み(学校等でのアンケート等) 子どもの居場所、学び場の確保 人に面と向かっての相談やSOSの発信が難しい人には、インターネットでの相談や支援のチョイスが行える仕組みがあってもいいかもしれない</p>
<p>参加ができると、実際に話すことができ、子育ての相談や質問を直接聞けますが、ネットワークからでは情報の発信が一方通行になるため、子育て家庭に実際にアンケートをとるなど、双方向でのやりとりや発信が必要である。</p>
<p>子育て世帯の方が安心して子育てできるような環境や施策を今後も継続し、拠り所となる場所を確保する。またその各所の広報活動には幅広い年齢層の方が目にしやすい手段、方法をいいのではと考える。</p>
<p>安全面を考慮して、小学校の校庭を校庭開放したり、公共施設を充実させたり、保護者も安心して送り出すことのできる環境を増やすこと。</p>
<p>参加している側からも提案できるようなシステムがあるといいと思います。 電線を地中に埋める。</p>
<p>どこに、どの施設(広場など)があり、どんなコンセプトの施設なのか、知らないお母さんたちに知ってもらい、一人でも通いやすい環境にしてほしい。</p>
<p>できることなのかはわかりませんが、ゴミ収集車にアルミ缶を持って行ってもらったら市の収益になり、地域の方が集めれば地域の方の収益になる。地域の方は地域の収益が必要なのでアルミ缶を集めておられるのだと思いますが、この時間を他のこと(例えばボランティアなど)にあてて、その実績に応じて市から地域の必要なもの(アルミ缶を集めて得ようとしているもの)などを渡したりしたら、地域の方も市も気持ちがいいのでは。</p>
<p>小学生が利用できる施設の充実、ゲームなどではなく広場や公園など安全で安心してのびのびと遊べる場が増えると思う。</p>
<p>地域の方たちと遊んだり、けん玉、お手玉等を教えてもらってお孫さんとかにも公立幼稚園のよさを伝えていただきたい。</p>
<p>今はコロナ対応で大変だと思います。とても感謝しております。今のままで大丈夫だと思う。</p>
<p>他の地域との交流の場が必要。</p>
<p>子どもたちも保護者もそうですが、やはり「体験」をしないとわからない部分がたくさんある。PTAを通して私も知り、体験することで他の保護者や、子どもたちに伝えていくことができましたので、周知、発信のあり方、また報告などの工夫が必要だと思います。(インスタグラムなどされていますが、例えば動画配信など)交流の場は対面でなくてもできると思う。集いが可能なら、小、中学生の生徒が地域の方々のボランティア活動に参加するなど、そのような体験から自信につながるように願います。</p>
<p>これからは更にネット社会になっていくと思うが、上手に利用すれば良いと思う。間違った情報と必要な情報を見極める判断力をつける必要があると思う。</p>
<p>保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校との連携や子供の将来を見据えた子育て支援など、豊かな人間性などが身につくと思う。</p>

問4 その他（こんな地域になってほしい、地域福祉活動計画や福祉施策に望むことなど）ご意見があれば自由にご記入ください。

<p>次世代に繋げていくためにも、学生等が子どもと触れ合う機会をつくる等して子育てに関心を持つことができるようにし、子育ての孤立化等が軽減できればと思います。また、いろいろな事業をされていることと思いますが、例えばチラシ等（例：福祉のお仕事座談会）もう少し、見る人が「行ってみたい」と思えるようなデザインの工夫等があってもよいのではと感じます。</p>
<p>こども食堂や学童保育等、子どもの居場所が家庭や学校以外のところでも守られていて、今後も継続してほしいと思います。 虐待のないひとりひとりの子どもたちが幸せに安心して暮らしていますと言える地域を目指し、私達も地域福祉に取り組んでいきたいです。</p>
<p>私が勉強不足で無知なだけかもしれませんが、「ニーズに気づき、支援につなぐ」際に、どこにどう繋がればよいのか、ある程度の絞った判断ができ、かつスピーディに、支援の対象者に情報を提供できるよう、具体的なケースごとに対応した福祉サービスや相談窓口などがわかりやすくまとめられたものがあるとよいと思います。</p>
<p>地域での多様なつながりを広め、困ったことがあれば、支えあえるような地域になってほしい。 また、災害時など緊急時に身近な地域で的確に支えあえるように、わかりやすいネットワークの仕組みなどがあればいいと思う。</p>
<p>ますます地域が一体となって子どもの育ちを見守り、安心して子育てできる温かい地域となるよう願っています。そして、寝屋川市でみんなに見守られて育った子どもたちが将来の担い手となれるよう乳幼児期からの教育の大切さを社会全体が認識できるよう、力を入れていく必要があると思います。</p>
<p>新型コロナウイルスの影響で人との関わりが制限されているが、子供と大人（地域の高齢者）との関わりを増やして、互いが良い影響を受け合いながら支え合う地域になってほしい。そのために、幼少期からの人を大切にする気持ちを様々な関わりの中から学んでほしい。</p>
<p>安全で安心して遊んだり生活できる地域になってほしいです。 地域の方と交流できる場がもう少しあったらいいかと思います。</p>
<p>家の近くの公園にてシーソーのタイヤが割れてしまっており、小さな子が乗るとすごい衝撃に襲われたり、足をはさんでしまいそうになっているのが気になります。</p>
<p>今以上に、安心して子育てができ、子ども達が安全で安心して生活（遊べる）できる地域になってほしい。あと、行事や活動を通して、集団の中で様々な年代の人々と関わりを持ち、助け合いながら生活できたらよいと思う。</p>
<p>人に優しい寝屋川市になってほしい。転んだ人を見て見ぬふりするほうが多いと思う。ご年配の方にも親切にできる人がたくさんいますように。今の小学生の子どもたちがそのように育ってくれることを願います。</p>
<p>行政と市民がもっと距離を近づけ、風通しのよい地域になってほしいです。</p>
<p>地域すべての川が透き通るくらいきれいなゴミのない川になってほしい。</p>
<p>「体験」という点から、できれば親子学級みたいな「妊婦体験」をさせてあげたいです。（よく妊婦ベストを旦那さんがつけたりする）妊婦さんもシルバーシートに該当すると個人的に思うのですが。命の大切さのつながりから学ぶ体験を通して、お互い様で助け合いの虹色カラーの地域になってほしいですね。いつもお世話になりありがとうございます。1人の馬力より、100人のかすみ草、そんな地域の交流、活動、支え合いを願います。</p>
<p>それぞれの年代が活躍（活動）できる地域になってほしい。そのためには、年代が上の方は年代が下の方に対して敬う気持ちを持ち、年代が下の方は年代が上の方が積み上げてきたことを理解した上で敬う気持ちが必要だと思う。</p>
<p>年々、フルタイムで働く母親が増加していく中で、多種多様な保育を利用していけるようになれば良いと思う。</p>